龜三年又兵火に遭ひて諸堂燒失したりしを天正九年當所住人玉置與次郎市場在衛門太郎等ちからを合せ堂宇をつくりて藥師の像を安置せしよし當寺の緣起に見えたり其外あやしき傳說多けれと信しかたけれはこれを畧す　本堂　竪十四間横十間あり大寺の名此堂による本尊の藥師佛ハ長四尺五寸あり　阿彌陀堂　本堂の西にあり　十王堂　閻魔堂ともいふ本堂の東にあり　庚申堂　阿彌陀堂の南に並へり　鎭守社　十王堂の北に隣れり　護摩堂　奥の方にあり　また　鐘樓　信玄塚　等境内にあり　寺領ハ往古三千六貫文　の地を加茂郡にて領せしといふ又　土岐美濃守頼益　齋藤持是院妙椿　武田信玄　森侍從忠政等寺領寄附の證狀もありしかこと〳〵く燒失し領地も散亡したりしを慶長七年　東照宮　百石の寺產を寄附し給ひ其のち我名古屋大君これに據り給へり此寺領の村のうちに醫女三人ありむかし行智尼の侍女に醫三人ありしがそれより傳へ今に三家ありて可兒の醫女といふもし近鄕に盲女あれハ必此三家のうちに來り住むやしなひを遠近にもとむれども官の禁めある事なし

寶積寺　ハ乾宙山と号し臨濟宗中村愚溪寺の末寺なり天文年中明叔和尙開基すといふ　慈德寺　ハ瑞輝山といひて臨濟宗中村愚溪寺の末寺也　永林寺　ハ吉雲山と号し臨濟宗中村愚溪寺の末寺なり　大光院　ハ修驗道近江の岩本院の同行なり　古城趾　ハ村の北可兒川の岸にありてふるき礎など殘れり小栗信濃守すみしよしいひ傳へたれどいつの頃の人か定かならす　雨乞鳥　御嶽の邊にあり一名を大こまといふ此角赤き故に水清けれハ影うつりて火焰と見ゆる故雨を乞水を濁らして呑と云案するに山せうびなりと　賤の小手卷　にいへり

杜若池　御嶽伏見のの間道の側にあり淺井圖南の　釜戸浴湯日記　に御嶽を出てしはし行程右の方に池あり池の中に社あり其池のこらす杜若咲たり跡先一町はかりもやあらん白き紫ときまぜたり　旅人の道さまたげつかきつはた

平柴村　ハ御嶽の枝鄕　同御領　四十八石六升五合

中村　ハ御嶽の西にありて小泉庄也むかしハ御嵩の屬邑なりし故御嶽中村ともいふ木曾路筋にて常に旅人往來す　尾張御領　千六百二十四石三升　名古屋まて十一里あり枝邑一所ありて　大庭　といふ　長瀨村　も　荒木野村　も中村のうち也　尼池　ハ長德二年二月七日藥師の靈像盤にのりてあがりしを尼行智願興寺の本尊佛の腹ごもりに納めしと彼寺の緣起にいへる舊地なり　鬼墳　ハ村のうちにありむかし關太郎といふ凶賊鬼と化して人を喫ひけるを綱源五盛安殺害せしよし願興寺緣起にいへる鬼の首塚なり今田圃の中に一堆存れり　栗　ハ實大く味も他產にまされりよりて名產とす　白山社　ハ一村の生土神とす例祭八月十八日　春日大明神社　神明社　二所　大明神社　ともに村うちにあり　愚溪寺　ハ大智山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺也永享年中義政將軍創建ありて義天和尙を開山とせられしよし寺僧いへり　濃州古蹟考　にハ應永年中細川右京大夫勝元犬山瑞泉寺の義天和

尙を歸敬して此寺を創建す此ゆゑに肥後の細川侯交替中山道通行の時ハ使者をもて　白銀法衣　等を贈らるゝ例なるよしいへり　寺領　三十石八斗六升　尾張の國君歷代御黑印を賜ふ　塔頭　梅仙菴　寶塚庵　雲松菴　凉宵菴　德隣軒　芳春軒　ありしなが今ハ皆廢たり　仙石左門宅趾　ハ村の南にありて今田圃となる左門ハ仙石越前守の先祖るよし里民いへり　正寶庵　跡ハ村の北にありて田圃となるむかし願興寺の藥師佛池の中にありて光明を放ちけるを行智比丘尼こゝに住みけるか彼光りを見て求め得しといふ尼が居りし菴のあとなり

顏戸村

ハ中村の西にありて明知庄といふ明知八ヶ村のうちなり　尾張御領　四百七十四石四斗六升二合　名古屋まて十一里あり木曾路の往還也　八幡社　ハ村のうちにあり八幡太郎義家の建立といひ傳へたりむかし此庄石清水の知行所なりし故勸請せしなるへし石清水權別當宗清法印立願文（建保五年の古書也）に可レ建二立大塔一事右件塔者成清爲二撿挍一之時燒失了云云美濃國明知庄者彼塔頭也弟子相傳二千今二知行付レ彼付レ此可レ遣可レ果志之尤切也神必哀納矣　と云るせり社務ハ惠觀寺つかさどるもと社の邊に大樹の塔ありしが三圍ばかりの古木にて二華表松と呼ひしよし今ハ枯はてたり例祭八月十五日　惠觀寺　ハ燈明山と號し眞言宗紀伊國高野山無量壽院の末寺なり寺傳に聖德太子十八歲の時日本廻國し給ひ此地に來臨し給ひしに蝌の長者と

いふ者太子を供養し奉りしかば天感ありて花を降し一燈を下し佛瑞を云めしけれハ山號を燈明山と名つく麓に花塚と呼ふ古跡今にのこれり又寛平法皇もひそかに當國に行幸し給ひ此佛地に到り給ひし故益信本學大師を當寺の開山とす當國に宇多院村といふ地名あるも其時の遺跡なり此あたりを明知御庄と呼べるも彼降燈のあかりと法皇のたはしまし云地なるが故也又源頼義朝臣東夷征伐ありし時此地に八幡宮を勸請ありしよしいへり長祿三年三月廿三日永正十二年六月三日の禁制の文書に勅願所眞言惠觀寺と云るせり　觀音堂　ハ里老在原行平朝臣の護身佛なりしよしいへり　在原行平墓　ハ村の南にあり中納言行平卿をこゝに葬めしよしいひ傳へたれど彼卿當國にて薨去ありし事さらになし只里人の說のみなり　福壽庵廢跡　ハ村のうちにあり兼山村大通寺の末寺なりしかとく廢れて今舊地のみ殘れり

柿田村

ハ顏戸の南にありて明知庄八郷のうち也　尾張御領　六百二石四斗一升七合　名古屋まて十一里あり　天王社　天神社　貴船明神社　ともに村民祀れり　正興寺　ハ大機山と號し臨濟宗京都妙心寺の末寺なり

古屋敷村

ハ柿田の東にありて明知八村のうち也　御旗本領　四百三石一斗六升六合

平貝戸村

ハ柿田の北にありて明知八村のうちなり　尾張御領　二百五十六石二斗八升二合　名古屋まて十里あり　天神社　ハ村うちにあり　可兒川　村うちを流る

淵上村　ハ平貝戸の東にあり明知のうち也　御旗本領　二百五石九斗六升五合

瀬田村　ハ平貝戸の南にありて明知庄八郷のうち也　御料　尾張御領　御旗本領とも　うち御領ハ二百七十石六斗二升七合也　名古屋まで十里あり　太元宮

千二百五十石七斗五升六合

社　ハ一村の生土神なり　瀬田左京ハ當村の士にて永正の頃近衛殿に官仕す植家公庶子一人を法師にせんとて比叡山の横川にのぼせられ左京を其傅とせらる然るに此公子出家を悅ハす武將とならむ事を本意とす左京ひそかに公子を伴ひ叡山をのかれ出當國に下り因幡山に到り齋藤入道を賴しかハ道三うけがひて公子を猶子として苗字を授く終に齊藤大納言と名のり勇名をあらハす左京が姉美婦にて道三が妾となり寵愛せられし緣によりてかく公子を伴ひ來りしよし

金山記　にえるせり　天龍寺　光蓮寺　瑞泉寺　村内にあり

石森村　ハ瀬田の北にありて明知莊八村のうち也　御料　尾張御領とも　二百二十六石二斗五升八合　うち御領ハ三十九石四斗五升八合なり　名古屋まで十里あり

石井村　ハ瀬田の西にありて明知庄八郷のうち也　尾張御領　百六十四石三斗六升

名古屋まで十里あり　神明社　ハ村うちにあり

山岸村　ハ石井の南にありて伊香七ヶ村のうちなり　御旗本領　二百四十五石七斗八升九合二勺

小作村　ハ石井山岸の西ありて伊香のうち也　同　百三十四石八斗九升二合

村木村　ハ小作の西にありて伊香のうち也　同　三百七十一石五斗一升五合

乘里村　ハ小作の南にありて伊香のうち也　同　六十二石一斗二升五合

下田尻村　ハ乘里の南西にありて伊香のうちなり　同　九十五石四斗三合

田尻村　ハ下田尻の東にありて伊香のうちなり　御料　二百五十石

伊川村　ハ田尻の東にありて伊香七ヶ村のうち也伊川伊香音訓近しこれ七郷の本村なるへし

御旗本領　四百三十二石三斗九升八合　中川寺　淨光寺　ハ村内にあり　神社あり　星宮と云村民祭れり

羽崎村　ハ瀬田の南にありて平牧莊といふ　尾張御領　八百八十三石五斗八合　濃陽志略に千三百四十九石八斗四升とあるハ枝村二野の高を合せたるなり　名古屋まで九里あり　八幡社　八劍社　山王社　南宮社　ともに村の地うちにあり　無量寺　ハ慈雲山と號し又寶池院と稱す眞言宗にて久利村放生寺の末寺なり　龍泉寺　ハ澤雲山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺なり　羽崎三郎光直ハ　土岐系圖　に池田兵庫頭賴忠の弟參河守康貞　土岐惡五郎　の三男羽崎三郎光直と見えたりこゝの人なるべし

二野村　ハ羽崎村の枝郷　同御領　四百六十六石七斗八升二合

大森村　ハ羽崎の南二野の西にあり　同御領　八百四十八石七斗八升　名古屋まて九里あり　天王社　八幡社　ともに村うちにあり　海印寺　ハ永陸山といひて臨済宗京都妙心寺の末寺なり　古城跡　ハ今城山と呼ふ地なり城主奥山又八郎天正十年森武蔵守長可に攻落され逐電して去りしよしいひ傳へたり　金山記全集　にハ大森主將奥村又八森家に敵對しけれハ武蔵守憤り士大將各務掛解由林長兵衛可兒庄六同藤助野呂助左衛門等三百余騎を遣し大森を攻撃けれハ又八禦き得す打負雑兵にまきれて落失けり越前國に趣き前田利家の旗下につきたりしよし云るせり

根本村　ハ大森の西南の方にあり　御旗本領　二百七十三石四斗五升二合　若尾入道元昌ハ内縁ありけれハ森家に属し武蔵守に從ひけり根本村に今に遺跡のこりて　元昌寺と云禪寺ありと　金山記　に見えたり

小木村　ハ根本の枝郷にて本村の西にあり　同　八十四石三斗

柿下村　ハ羽崎二野の東南の方にあり　同　二百三十五石　熊野神社村の北にあり村民祭れり

久々利村　ハ柿下の北にありて平牧荘といふ今ハ本郷本所の親村也　丸山　佐渡　原見　平

柴　我田　酒井　の七村にわかれたりむかしハ一村にて泳とも八十一隣とも久々里ともかきしとぞ　尾張御領　千三百七十石一斗三升　本郷一村の高は七百七十五石八斗六升一合なり　名古屋まて九里あり　淺間山　ハ高くそびえて松茂りたるか遠近より見ゆ峯に富士の社ある故名づく

洞山　ハ松柏生ひ茂れり千村氏の制禁にて雑人木を伐る事なし　喫米石　ハ　洞山の西北にあり石の上に米を置ハ暫時にして米消失する是石の喫ふ也と里人いへり　泳川　ハ本郷の東より出伊香をへて可兒川と落合ふ水源ハ洞山の麓なり　泳池跡　ハ本郷の東南にあり

日本書紀　に大足彦忍代別天皇四年春二月甲寅朔甲子天皇幸ニ美濃一左右奏言レ之茲國有ニ佳人一曰ニ弟媛一容姿端正八坂入彦皇子之女也天皇欲ニ得爲レ妃幸ニ弟媛之家一弟媛聞ニ乘輿車駕一則隱ニ竹林一於レ是天皇權令ニ弟媛至一而居ニ于泳宮一泳宮此云ニ區玖利能瑳倶一鯉魚浮レ池朝夕臨視而戲遊時弟媛欲レ見ニ其鯉魚遊一而密來臨レ池天皇則留而通レ之爰弟媛以爲夫婦之道古今達則也然於レ吾不レ便則請ニ天皇一曰妾惟不レ欲ニ交接之道一今不レ勝ニ皇命之威一暫納ニ帷幕之中一然意所レ不レ快亦形姿穢陋久之不レ堪レ陪ニ於掖庭一唯有ニ妾姉一名曰ニ八坂入媛一容姿麗美志亦貞潔宜レ納ニ後宮一天皇聽レ之仍喚ニ八坂入媛一爲レ妃生ニ七男六女一第一曰ニ稚足彦天皇一云云冬十一月庚辰朔乘輿自ニ美濃一還云云　と見えたる古蹟なり　萬葉和歌集　に百岐年三野之國之高北之八十一隣宮爾日向爾行靡闕矣有登聞而吾通道之奥十山三野之山廻得人雖踏如此依等人雖衝無意山之奥磯山三野之山　とよみ百岐年は枕詞燭明抄にとくめといふ草のくきをとりて岐が襲に作る也うれを百莖のみのとつゝけたるなるべしといひ冠辞考には百詩年の誤字にて万葉集同卷の歌に百小竹之三野王とよみしと同一冠辞なればもゝしぬみの國とつゝけしよし考へいへり　夫木和

歌抄 に 題不知讀人不知 いとねたしくゝりの宮の池にすむこひゆゑ人にあざむかれぬる と見え 文永二年白川殿七百首に 寄池戀眞觀光俊右大辨 たのめたゝくゝりの宮の池にすむ戀こそつゐのゑるへとゝなれ此歌夫木抄にも入りたりと ゑるせり 衣乾岩 ゝ丸山村のうちにあり里老のつたへに景行天皇此地に御幸し給ひし時御衣を此石にほし給ひしといへり 千村氏第宅 ゝ村のうちにあり 千村山村の兩士 ゝ木曾家代々の家臣なりしが義仲朝臣十九代の裔孫木曾伊豫守義昌天正十八年木曾を轉じて下總國阿地にうつり 一万六千石 を領し東照宮に附屬し奉り此時神君關左八州を領し給ひければ木曾小笠原依田の三國士附庸となる義昌卒後その子千三郎義利故ありて叔父內藏助を殺害せし不義により領知沒收家名斷絕せしかば家臣千村山村馬場など舊里木曾に立歸り住居たりしが慶長五年 の亂に 台德院君 中山道御攻のぼりあらせられ木曾千三郎義利を御赦免ありて木曾路の御案內を命せらるへき御沙汰ありしかと義利魯鈍にて其任に堪し彼が舊臣 山村千村 に命せられ然るべしと本多上野介大久保石見等など申しかば彼二人に仰付られ先鉾をうけ給ゝり功勞ありし御恩賞として義昌の 舊領 一万六千石 を二氏の一族に給ひ美濃のうち所々に第宅を營み搆へけるが 千村平右衛門良重嫡家惣領 なれば此地を在所として居宅をむすび世々在住せり山村良勝は福島御國所あつかりを命せられ木曾の福島にうつりすめり其一族山村原三尾等九家ありてこれを 久々利の九人衆 と稱す皆名古屋の世臣となりしも千村山村ゝ江戸に參勤

一方名古屋に出府し幕府と名古屋と兩屬の事となれり 古磁器 ゝ俗に源十郎燒と稱す中むかし源十郎といふ陶工こゝにありて能磁器をつくりしといふ今まれにのこれるあり殊に古雅にて賞翫すへき物なり 閑遊設錄 に可兒山中吉八郎號消暉亭家藏 一碟 其製甚古烈文彩繪妙不可言云古泳縣有源十郎者善陶即其所手造也何意山中有若良工者也今大茅山有源十郎墓土人祠之祈之癒有驗 と見えたり 木理石 ゝ 同錄 に泳中山中有木化石木理儼然而質石也云柿木所化然此間無有柿木我久疑之問之山人即云其木非柿俗名志天樹斫枝持來示我其葉如椶柳而大木理白膩甚堅山人間見其半化石者可以爲異 と見えたり 紙 ゝ 直紙半帋 をすき出す 松茸 ゝ堂山に生ず其外いろ〳〵の茵多し 富士權現社 ゝ淺間山のうへにあり 八幡社 ゝ放生寺つかさどる天正十三年二月二十日燒失して古記神寶等灰燼となりしかゝ慶長十四年山村甚兵衛良勝千村平右衛門良重再建す 神明社 八劍社 天神社 稻荷社 天道社 神明社 天王社 ともに久々利七郷のうちに鎭座す 放生寺 ゝ神光山と號し眞言宗高野山の遍照院の末寺八幡宮の社僧なり 圓明寺 ゝ平牧山と號し眞言宗高野山增福院の末寺なりもとの圓明寺に藥師の大像ありしか文安六年二月堂宇も本尊も燒亡して廢れたりしを享德年中一堂を建て藥師の新像を刻安置す享保年中僧通範再建して一寺とし須原村の廢寺をうつし舊名圓明寺と名づけしよし寺傳にいへり 東禪

寺ハ久昌山といひて臨濟宗みやこ妙心寺の末寺なりはじめ下總の綱戸にありて木曾伊與守義昌法名東禪寺の菩提所なりしを慶長年中千村氏此地にうつす千村刑部少輔政直はじめ左衛門號宗松内室は山村三河守大江良利女慶長十二丙午年六月廿日卒し當寺に葬りしより其子平右衛門良重以下世〳〵の菩提寺となる

千村氏ハ清和源氏義仲將軍の後裔にて木曾氏なりしが義仲の三男木曾三郎義基七代の孫家重の時上野國千村を知行し康永元年初て木曾を改めて千村氏とす家重の十一代豐知ハ政直の父にて義仲より政直まで十九代なるよし　千村家譜　に見えたり　長保寺　ハ桂昌山といひて臨濟宗みやこ妙心寺の末寺也開基の年月定かならず當所の城主土岐氏の菩提寺にて三河守の位牌ありて前三州大守雲溪龍公大居士天正九巳年九月十二日と云るせり其外彼氏の位牌多し　友圓寺　ハ樹王山と號し日蓮宗備前國妙善寺の末寺なり當所の領主千村平右衛門重長の室名古屋の長臣阿部河内守正興の女寛永二十年創建し其法名をもて寺號とす　土岐氏城趾　ハ洞山の下にありて今ハ千村氏の屋敷となる　濃陽志畧　に土岐三河守土岐支流一名泳氏世々住二此邑一永祿中惡五郎者有二膽氣啓力一與二兼山齋藤大納言一角力後殺二齋藤氏一事見二兼山條下一惡五郎後名三三河守一天正十年六月織田信長遣レ弑森武州長可住二烏峯城一謀招三三河守於城中一殺レ之即奪二泳城一然傳記眞僞相半姑俟二後人一　と云るし　土岐系圖　に土岐惡五郎康貞又名頼名參河守ハ土岐大膳大夫頼康の弟にて世知大力劒術早業達者也八幡合戰附二氷色笠印一持二大太刀一有二軍功一與二和田五郎一戰而落二于片岸一

而戰死或文和二年己巳六月於二吉田合戰一討死とも　と見え康貞の子久々利太郎行春　と云るせり　志畧　の惡五郎ハ永祿天正頃の人系圖の惡五郎ハ觀應文和頃の人ともに三河守とハ名乘りしよしなれど時代はるかにたがひ百四五十年ばかりも隔たれり傳說のあやまりかされとも志畧にいへるハ　金山記前集後集　により又里老のつたへにもとつきて記したるなれハひたすら誤りともいひかたし行春の子孫久々利氏を稱し祖先の名を用ひ惡五郎三河守など呼べる者ありて天正の頃森氏に亡ぼされしにてもあるべし今詳には評しがたし　舞臺墟　ハ今田畠となる　金山記全集大成　に天正十年信長公甲府を攻られし時金山烏峯の城に宿られけれハ三月九日三河守我久々利の館に迎へ奉り酒宴をまふけて奔走し子息龜松于時十五歲に命して猿樂の能をなさしめ饗應せしよし云るした る舞臺のあとなり　古人穴居迹　ハ山の中所〳〵にあり　閑遊設錄　に此邊山中古人穴居之迹甚多今日偶見二其一二一穴在二山半腹南面一延袤丈餘其土堅緻如レ石甚怪且古上古穴棲之世民處二其中一云　營窟倚二崖口一飲谿鶩レ有レ神猶疑陰壑裏恐見二大荒民一　と見えたり　享保十八癸巳年三月九日久々利村の内ばん場といふ所の畑より唐銅の鐘の如き物を堀出す名古屋の士原仁惠次は久久利九人衆と呼へる内の一家にて此地を在所とすの屋敷寺林八といふ者ほり出しけるとり所の庄屋より千村の家來安在當左門山村の家來非澤藤八をもて右の國家へ申達す此に其圖を畧〳〵殊に古雅なる物なりやがて當村東禪寺に預置しがのち法緣により名古屋の總見寺へ送り納めしとぞ今總見寺の什物なり　寛政四壬子年閏二月　三河國渥美郡神戸鄉谷之口村の池塘にて堀出したる銅鐸の

國を　閑田耕筆　にのせたる高三尺四尺厚二分厚九貫目其かたち全く此久々利にて堀出したると同し物なり　續日本後記　に　承和九年六月辛未　若狭國進二銅器一其體頗似レ鐘是自二地中一所二堀得一也　と見え　三代實錄　に　貞觀二年八月十四日辛卯　參河國獻二銅鐸一高三尺四寸徑一尺四寸於二渥見郡村松山中一獲レ之或曰是阿育王之寶鐸也　と云るし往古も地中より堀出せり扨その村松山中と寛政に堀得し谷之口村とゝ同郡にてわづかに四里ばかり隔ちたりといふかくさかい近き地にて千年をへだて同器を堀出したるゝ不思議といふべしかゝる同器を諸國に埋め置しゝいかなる故か今はかりがたし貞觀の頃にさへ其故云れずあるひゝ阿育王の寶鐸也とかきしゝ例の佛徒がいへるあやしき說なれど其品の古くして何とも辨へがたきよしゝきこえていとにもしろし何れにも數千年以往の古器の地中より出て云かも其形のあやしく珍らしければ其よしを云るし其圖をあぐ猶　閑田耕筆の第二卷　にのせたる寶鐸の圖を合せ見るべし　年中故事要言（享保三年の板行本）美濃國泳宮の村にゝ正月十五日に新に杖を削て其削屑の縷の如くなるを杖の頭に殘て名て削掛といふ是にて女を答て大の男十三人といへり然れとも其義を知る者なし是も男子を生む事を求る祝ことゝならん　と云るせり

佐渡村　ゝ久々利七郷のうちにて本郷の北にあり　同御領　二百石

我田村　ゝ久々利七郷のうち佐渡の北の方にあり　同御領　九十六石

酒井村　ゝ久々利七郷のうち我田の西にあり　同御領　六十石

原見村　ゝ久々利七郷のうち佐渡の東北にあり　同御領　百十石

平柴村　ゝ原見の北東にありて久々利七郷のうち也　同御領　十四石二斗六升九合

丸山村　ゝ本郷の東にありて久々利七郷のうちなり　同御領　百十四石　大茅村（大萱）　ともかく丸山の東にあり山中に源十郎が墓あり瘤をいのりてしるしあり　大平村（大芽の南の方にあり）　ともに久々利の屬邑なり

小名田村　ゝ栁下（ナコリ）の南久々利の大平の西の方にあり　御旗本領　七十二石　陶器　ゝ酒杯茶盌等をつくる形色うるはしく愛すべし　小名田坂　村の北にあり

長瀨村　ゝ山を隔てゝ小名田の西の方にあり池田八郷のうちといふ　御料　六百八十六石七斗一升八合　虎溪山　ゝ村の北東にあり風景のよき事ゝ他國までも聞え古人も賞美せり　中州軍記　に安藝の國御許山佛通寺に先年行脚の僧來り山の姿川の流れを一見して一首の歌を送る　あきのくに御許の山のなかりせゝ美濃の虎溪ゝ日本一なり　と譽しと彼寺の住僧が毛利元就の主に語りしよし云るしたるにても知るべし　夢窓國師家集（正覺國師詠草ともいふ）に濃州虎溪と云山中に栖侍ける頃一筋の道だにもさだかにふみつたへぬ山のわくなれど參學の志あるたぐひ訪來けるをいとひ侍て　世のうさにがへたる山のさひしさをとはぬそ人のなさけなりける　と見ゑたり此歌を　鵝長明家集　に入たるゝ後人添たるあやまりなり　永保寺　ゝ虎溪にあ

り虎溪山（あるひハ古溪山また巨溪山）といひて臨濟宗京都天龍寺の末寺なり　夢窻國師尊氏將軍　の請命に
より當山を開きし事ハよく人の知る所なれば茲るすに及はす夢窻はじめ安藝國大木山榮泉寺よ
り當山に來住せしといふ　貞和二年　光嚴天皇　の勅願道場となし給ひぬ寺產數百貫境
内に　三十余坊　の僧舍ありしが年へて衰廢し今僅に　七坊　と　寺領五十石三斗六
升　のこれり本尊聖觀音ハ美濃三十三所の卅一番なり　默雲詩藁（天隱和尚の詩藁）に　余居二東山一之日閑
花間挿二紅藥一春夏之交爛然以開也今歲避レ亂寓二虎溪一雖レ欲見レ之不レ可レ得也今朝俗雲老人惠
以二數莖一副以二一章一蓋慰二余客居之情一也因奉レ次二其韻一以酬二厚意一云　可憐紅藥不レ忘レ時
四月山庭帶レ露披遙想東山舊廬雨殘花無レ主蝶迷レ枝　予至二虎溪一已歷二兩三月一梅
雨連レ旬蓋山間氣候也今宵月色皎然客懷其少安乎卒援レ第以寄二代雲藏勝二老人一云　十日都
無二一日晴一厭聽山雨打レ窓聲今宵適欲レ賞二佳月一夏木陰々光不レ明　とつくられ
り天隱は京都建仁寺の住僧名龍澤號二默雲一文明十五年錦繡段を撰べり其頃の學僧也　閑遊記錄
に我レ遊二虎溪一云云其路盤旋山徑崎嶇不レ易レ行也已牌到レ寺松林數萬株森々然爲二毛蟲一所レ嚙半
已凋枯漸入二寺門一佳境甚多不レ勝二枚舉一記二其一二一瑞靈巖屹立臨二溪水一其高數十丈堆疊若レ累
棋子一可レ謂二鬼工一也俗名二天狗石一是也門前有二榜示一永正年中所レ立也而不レ著レ名惟題曰二美濃
守一余謂以二歲月一考レ之恐土岐氏所レ立也門前有二一池一曰二臥龍一有二偃松一形如二臥龍一而枯有レ橋

曰二無際一其製甚古倚レ欄柏レ手則魚鼈唼喁所レ謂放生魚鼈逐レ人來者也池上有レ觀曰二水月場一有レ岩
崖見曰二梵音一岩頭有二一殿一曰二靈擁一老僧曝レ書把而見レ之即元板阿含經也摺裝破壞蠹魚爲レ害云
云其後有二坐禪石一高數百仞蒼壁如レ側レ掌余捫レ蘿登レ之其上平穩可レ坐然俯瞰則目眩是疎石師所二
跌坐一也下レ岩入二一菴一曰二華藏一最清潔無レ人同伴者賦レ詩余亦賦二一律一　虎溪閑寂地流憩爲二林
泉一寺廢僧徒少松枯蘿薜懸清池覩二水月一危石證深禪我欲レ登二玄路一一吞兜率天　下レ山入二常
住僧舍一曰二永保寺一此中有二八院一而每年輪而住二持之一云云　と見之　防丘詩選　に遊二虎溪一記
木實聞　自二土岐驛一屢涉二溪流一東行數里道傍有二石碣一道分成レ兩因折而入二山徑一南行數里則至二
虎溪一虎溪蓋濃陽之勝區而正和年中創二建佛殿一距レ今四百餘年山林秀潤氣象開敞蹤蹟境幽可レ賞
益多以レ故四方好事之徒聞レ名而來遊者不レ少其地也屏蔽旁圍長川前流洞谷林麓竹樹泉石皆極二清
奥一是故地不二甚僻一山不二甚深一而與二人間一異レ軌眞方外之佳境也寺之地方不二甚大一而而撮レ奇得
レ要一山之勝率聚二於此一堂宇池臺布置亦各極レ所レ宜矣其西北隅小庵顏以磐礴乃開山師之所レ搆而
山之奇絕亦從レ此始焉北屏以二密竹一西繞以二羣阜一大包庵裒勝閣仙壺塔高下參差相列於前一
其右石渠出於西北山間一澤二泆於庵前一流二出於大包之簷下一者爲二桃源水一清淺奇麗可二以濯レ纓西
南數百步有二盤石一高百餘尺巍然屹立與二諸峯一相升降傳言開山師坐二禪其上一而今登者以二其危峻一
眩轉弗レ得二久居一石一勢低而東趨又挺出名二五老峯一其正北有二臥龍池一大可レ容レ航有レ橋曰二無際一

有レ廟曰二靈庇一廟前奇石出レ水可二二尺一突怒上向曰二指天橋一旁小閣斜阽二於岸側一曰二檜待一此昔日泛レ池纖レ船之處也池面二小坻如二龜之遊鶴之跱一龜島鶴島也池畔老松樹屈曲輪囷偃蓋蔭レ水亦以二臥龍一爲レ名池北有二佛堂一二爲二華藏庵水月塲一水阻二兩間一以レ橋相通此爲二回欄柱一右則梵音巖頂有二靈擁殿一瀑布當レ殿而出二徑界巖腹一瀉入二前池一水簾高懸乱沫四散後則楓樹林起レ自二盤礴之側一過二梵音一而東亟其餘境内名區歴歴可二指數一者水月之壯觀也捨レ池而南松杉蘚苔樹石犬牙山最深邃榛棘葛之中得二一小洞一内有二神祠一號爲二秘窟岫一殊難レ至焉門在二池之東南一俯レ流帶レ山凡境外佳勝擧レ目咸可レ翫其南則玄路險二干上一爲道阻二干下一懸磴嵯峨樹石瘦勁尤堪二稱賞一而以崎嶇登者寡矣出レ門直去川之東北有二佛窟一巖高三四丈廣袤百餘步以二巖穴有二佛像一故名亦甚難レ往其下則十八灘也中流澎湃怪岩爭出水激二石間一鏘然玉鳴粲然珠散奇態倏忽殆不レ可レ狀灘水廻轉之處深而不レ可レ測蔭巖攢蹙卿木叢生雲霧藹蔚窈冥幽怪如二龍之潛一因以二龍浮一爲二淵名一傍レ岸而北則寺之東境也斷崖壁立謂二之錦屏林一蓋抄秋山樹經レ霜望レ之如二錦繡一又北上有二瑞靈殿一聳出四丈許石勢層累孤高弗レ倚上則挺然直指下則倒レ景入レ流頗與二坐禪石一相似尤極奇峭水中有二獨立巖一又高丈餘湍水至レ是回潭迸而雷奔散而煙布觀者凓然覺二神思之爽一其東開二茶園數十頃一由レ是而望二東方一郊墟村落一瞥可レ盡晻藹林巒唯此曠廓茫可二遠眺一焉寺僧採レ茶貨二于四方一西岸有二水牛石一横出二于川上一其大可二坐而遊息一宛然如二海獸之出レ水而臥一也川流轉折之處設二小橋一號二三笑一以限二溪之内外一門外至レ是可二六七百步一指二其地一爲二漸入二佳境一蓋自二北山一入レ溪者歴覽之所レ防而語亦有二來由一大凡游覽之勝所二最貴一者二焉水也石也此地山林如レ斯之美而泉流岩壑亦瑰偉清麗不レ可二彈記一則其所三以冠二近土諸名勝一者良弗レ虛矣歳次二丁亥一當二孟夏之交一而余發二東都一返二張藩一枉レ觀遊二於虎溪一於レ是畧叙二山水之槩一爲二遊虎溪記一　と見えたり丁亥ハ寶永四年なり　夢窓國師家集　に土岐伯耆前司入道よみてよみてたてまつりける十五首の歌の御贈答　存孝　たりにふれ時にしたがふことはりをそむかぬ道やまことなるらん　御かへし　ことはりをそむくそむかぬふた道ハいいつれとたなしまよひなりけり　存孝　ゆめの世とたもふもいまの迷ひかなもとのうつゝをなしときくには　御かへし　夢の中にゆめとたもふも夢なれはゆめを迷ひといふも夢なり

虎溪茶

ハ寺にて製す名産尾張の内津の茶に同し

中郷村（ナカノゴウ）

ハ長瀬の西にありて池田庄八ヶ村のうち也　御料　尾張御領とも　六百二十一石八斗三升三合　うち御領ハ五百石なり　名古屋まて七里あり　土岐川　ハ十三嶺の槇ヶ根のあたりより流れ出日吉川萩原川等の數流落合池田内津等をへて尾張の春日井郡に至り又尾張の川々入合ひ末ハ味鋺川枇杷島川となる　白山社　ハ村内にあり　安養寺　ハ寂光山といひて曹洞宗尾張の愛知郡御器所村龍興寺の末寺なり　因果物語　に寛永十八年十月濃州池田の近所中郷といふ所に文秀といふ僧ありしが女難をうけ其事により恨み出來て人をのろひ殺しける

に其むくいにて七日も過ざるに文秀狂氣してあやしきふるまひせしよし云るしたるゝ此寺の僧か又外にすみ居し坊主か今ゝ知りがたし

野中村　ゝ中郷の西北にありて池田八郷のうちなり　御料　二百八十六石九斗五升九合

北村　ゝ中郷の西にありて池田八郷のうち也　同　三百十一石四斗三升四合

池田村　ゝ北村の南にありて小泉庄といふ池田八郷の親村にて町屋といふ下街道の宿驛にて常に旅人往來す町並東西五町半ばかり三たび曲り　和名類聚抄　に可兒郡池田とあるゝこゝ也

尾張御領　七百五十一石五合　名古屋まて七里あり　富士嶺　ゝ村の西にあり高く秀て峯に松數樹あり　土岐川　ゝ村の東にあり里老の話に池田の朝霧内津の夕嵐といふゝ尾張の内津にゝ晩に風生し此池田にゝ曉より霧たつ事常とす此地山あひにて川水蒸のほりて毎朝霧となるなり　鮎　ゝ土岐川にあり村人網にてとる味美なり　栗　ゝ山中に多し名産とす

神明社　ゝ村内にあり　神風抄　に美濃國池田御厨と見えてむかし大神宮の御厨の地なる故勸請せしなるへし　**住吉大明神社**　貴船明神社　白山權現社　ともに明圓寺つかさとる　**明圓寺**　ゝ石勳山と號し眞言宗名古屋寶生院の末寺也創建の年月定かならす永仁年中僧宗憲中興し山門また愛染寶塔等ありしがみな衰廢し今境内の觀音堂に行基の作の千手の像を

安置す　**永泉寺**　ゝ石堂山といひて曹洞宗名古屋の善篤寺の末寺なり　因果物語　に濃州池田村に次左衛門といふ庄屋有り地頭へ少の慮外有し故拷と共に籠舍せり次左衛門籠の中にて甥を小刀にて指殺し其死骸の上に乘て言けるゝ去てゝ非義の曲事に逢て死する事無念也此遺恨にゝ年忌々々に村中を燒拂べし地頭一家をゝ取殺べしと憤て自害しけり其如く地頭子共三人を取殺し其身盲目となる云云年忌毎に村中へ火を付燒拂ふ百姓あまりに迷惑して地頭へ訴訟を申し寺を建高七石寺領を付名古屋より周呑と云僧をよび住持に居へ次左衛門位牌を立吊ゝせけれゝ火事收り村中無事になる也周呑ゝ本秀和尚の弟子也　と有ゝ此寺なるべし　**池田氏城跡**　ゝ村の東南の岩山なり里人池田勝入の居城といふ　紀氏系圖　群書類從の印行本に中納言長谷雄の子從四位下信乃守淑望の二男從四位下宮内少輔維實母ゝ美乃國池田領主維將女仍住二當國一號二池田一　と見え維實の子　池田右馬允泰政　實ゝ源仲政子とゝるし　其子池田薩摩守泰光　治承五年三月爲二頼朝卿御方一　其子池田武者所泰永　紀四郎刑部亟元久元年伊勢合戰忠功承二大功延應二年三月十四日卒八十二一　とあるゝ　**池田信輝入道勝入**の先祖にて代〳〵此地にすめり　濃陽志畧　に右馬允泰政を左馬允奉政とすあやまり也

井原村　ゝ池田町屋の南にありて小泉庄池田八郷のうち也　尾張御領　百二十七石九斗三升六合　名古屋まて七里あり　栗　ゝ山林にあり名産とす　神明社　ゝ村内にあり、

大龍寺　ハ神明山と號し曹洞宗尾張の春日井郡光音寺村光音寺の末寺也

三倉村　ハ池田町屋の南の方にあり小泉庄池田八郷のうち也　同　八十七石七斗七升八合　名古屋まて六里余是尾張美濃の堺也　諏訪明神社　藏王權現社　ともに村うちにあり

小木村　ハ三倉の南にありて小泉庄池田八郷のうち也　同　三十三石二斗八升一合　名古屋まて六里余あり　諏訪明神社　ハ村民まつれり

大原村　ハ北村の北の方にあり　御旗本領　四百九十一石五升

新撰美濃志廿七の巻

尾張文園岡田啓編輯
美濃簡齋神谷道一修正

各務郡

大野村　ハ郡のうち西南の隅なる里なり各務野の廣かりし名の此村にのこりしなるべし　御旗本　坪内氏　領　三百七十石

小佐野村　ハ大野の東の方に並べり　同領　百四十六石七斗七升

三井村　ハ小佐野の北にあり　和名類聚抄　に各務郡三井とある舊郷なり　同領　五百二十五石八升　御井神社　ハ　延喜神明式　に各務郡御井神社　と見え　美濃國神名記　に正四位御井明神　と云るせり　應蓮寺　ハ松岡山と號し臨濟宗尾張國中島郡稻葉宿禪源寺の末寺也　古城　ハ　三井彌一郎　すみしよし　名細記　に見えたり　攝津掃部頭親秀が曆應四年八月七日讓狀に惣領能直分美濃國三井とあるハ比地の事なるべし

新加納村　ハ大野の北にありて木曾路ハ村うちをつらぬけり更木郷といふ　同領　八百五石

五斗三升　町屋すこしあり　領主坪内氏　の屋敷もあり　少林寺　は東陽和尚の開基にて龍慶山と號し當所の領主坪内家の菩提寺なり和尚ハ永正元甲子年八月廿四日當院にて示寂し勅諡大通心源禪師と號す堂の後に禪師の墓ありて上に五圍はかりの大樹の松あり東陽語錄を無孔笛といふ其草稿本三ッ屋北方村の慈溪寺にあり　古戰場　ハ大野村の堺あたりなるべし慶長五年八月廿三日岐阜の城より木造左衛門佐津田藤右衛門百々越前守飯沼十左衛門本名勘平上有地の城主佐藤才次等其勢二千計新加納と大野の間に出張し黄門秀信河手村閻魔堂の邊迄出馬せらる寄手の先陣池田輝政其勢七千余伊木清兵衛先鋒として向ふつゝいて淺野幸長堀尾信濃守等押寄合戦せしが津田木造百々佐藤飯沼等打負新加納を破られて引退き秀信も岐阜に歸城ありしよし　慶長創業錄　その外の實錄ともに玄るしたる古跡なり

長塚村　ハ新加納の北にありて更木郷なり　同領　五百六石五斗八升　手力雄社　ハ村うちにあり例祭九月十五日此宮の鐘今名古屋の萬松寺にあり　銘に美濃國各務郡弓削田庄佐良木郷長塚宮推鐘椹那薄田源左衛門尉藤原祐貞禰宜藤原兼光大工兵衛大夫藤原友次結衆五十餘人　文明七年己未十一月十八日　と見えたり　大願寺　ハ淨土眞宗東派なり

山後村　ハ長塚の北にありて佐良木郷と云　御旗本領　三百五十六石八斗七升四合

前野村　ハ山後の東にありて佐良木郷とも更木庄ともいふ　御料　尾張御領　御旗本領

とも　千二百五石七斗二升　うち尾張御領　百七十三石二斗七升正保年中減して七十五石四斗一升七合となる　名古屋まて八里あり

西市場村　ハ山後の北にありて佐良木郷也　御旗本領　五百二十四石八合　夕暮富士ハ南面富士山に似て夕日のうつる景よし依りて名づく西の麓に大岩あり

岩地村　ハ西市場の枝郷にて本村の東にあり　同領　三十八石四斗八升四合

桐野村　ハ西市場の西にありてその枝郷なり　同領　二百十三石四斗九升五合

大島村　ハ前野の北東にありて曾原郷といふ　同領　七百七十三石四斗一升

北洞村　ハ前野の北にありて更木郷なり　御領　二百八十四石八斗一升七合

宮代村　ハ大島の北東にありて曾原郷也　御旗本領　百五石九斗七升五合

岩田村　ハ北洞の北にあり　御料　御旗本領とも　五百五十三石六斗一升七合

岩西明神社　ハ　延喜神名式　に各務郡伊波の西神社　と見え　美濃國神名記　に正四位下伊波野西明神　と玄るせり　岩田小野　ハ山城國にも同名あり美濃には玄のゝにすゝき眞葛原などよみ合せ山城にハすみれ草きゞ須等を詠ずるよしいへり此所今ハ野なし薄ハ所々に生ひたり　金葉和歌集　又千載和歌集　に思ニ野花一と云る事をよめる　藤原伊家　今はしもほに出ぬらむ東路のいはたの小のゝ玄のゝをずゝき　八代集抄　の此歌の註に岩田小野美濃也

と云るせり　草庵和歌集　に獨吟百首に　頓阿法師　尾花ちるいはたのをの丶秋風にうつらの床や夜寒む成らむ　と見え　臨永和歌集　に　初秋の心を　前大僧正桓守　秋きぬといはたの小野の玄のす丶き忍ひに吹も風そ身にしむ　とよめりみなこ丶の歌なり　同し集に戀歌の中に　源英嗣　思へとも岩田の小野のは丶そ原宮つくまてに神そしくる丶　弘長百首　に鹿正三位行家朝　日の暮にいはたの小野をゆきしかいさをしかなきつ妻をこふらし　惟宗廣言集　に野徑女郎花　うつらなくいは田のをの丶をみなへしたらて過へき心ちこそせね　季花集　にいかなる事にかもれけん人のうら見侍しかば　宗良親王　は丶そ原かつ散そめしことのはに誰かいはたのをの丶秋風　とあるゝこ丶の歌か又山城の岩田の小野ヶ今玄りかたし

芥見村（アクミ）　ゝ岩田の北の方にありて當郡のうち北のはてなる里なり　八雲御抄　にあぐたびの里とか丶せ給ひ　和名類聚抄　に各務郡芥見　と見え　吾妻鏡　に寛元三年五月七日　庚子就二懸物年紀一被レ付二美濃國芥見庄於山田郷一可レ爲二萬年入道御使一之由云云　と玄るし康正二年造内裏段錢國役引付　に屋代源藏人殿美濃國芥見庄地頭職段錢　と見えたり　藤川記　に十六日竹の内の僧正の芥見の庄を一見すべきよし玄めすによりて江口よりふねに乘て二里ばかり河傳ひにさかのぼる　と見え　夫木和歌抄　にあぐた火の里　祐筆　玄たもえによをのみつくす人ならで誰かふすぶるあくた火の里　とよみしも此里なり　**御旗本**（金田氏本庄氏室賀氏）　**領**　二千二百六十九石七斗五升四合　津保川　ゝ東の方津保谷より流れ來りてこ丶にて長良川に落合ふ　八幡社　字野村　明神社　字大野木　諏訪社　字野畑　神明社　字清水　權現社　ゝ同村南の方山手にあり　眞正寺　ゝ黄檗宗にて同村字野村　清水寺　ゝ同宗字清水　藥王寺　ゝ曹洞宗にて字大野木　竜雲寺　ゝ同宗字大船　圓通寺　ゝ同宗字野畑　近道寺　ゝ眞宗にて字永山其他　冷泉庵　黄檗　美溪庵　同宗　貫松庵　同宗　大師堂　同宗等村内にあり

岩瀧村　ゝ岩田の東にあり　分脈系譜　に山田太郎重滿弟小島五郎重平子同二郎重俊美乃國岩瀧郷本主承久京方被レ討了　とあるゝこ丶の事なりまた　吾妻鏡　に建長四年九月七日戊子若宮別當法印隆辨拜二領美濃國光瀧郷一云云　とあるも光ゝ岩の誤字にてこ丶ならむか外にさる郷ありとも聞えす　**御旗本領**（本庄氏）　七百七十九石八合

大洞村（オホホウ）　ゝ岩瀧芥見の東にあり　御料　二百五十六石八斗九升　願成寺　ゝ眞言宗にて如意山と號す本尊十一面觀音座像ゝ行基菩薩の作脇立ゝ勝軍地藏毘沙門也當國三十三觀音の二十三番に配してつねに參詣の人多し境内に　大日堂　辨才天堂　等ありまた二王門もたてり　白山社　ゝ村の生土神なり　神明社　もあり

伊吹村（イブキ）　ゝ岩瀧大洞の南にありて曾原郷といふ　季瓊目錄に　長祿三己卯七月十五日南禪寺内

竜光院不知行在所、濃州蘇原郷内拾貫文分自二康正元年一興善院押領之事也　とあり興善院ハ土岐頼益の法號也　御料　九百四十五石一斗八升

飛鳥村　ハ岩瀧の東にありて蘇原庄とも曾原郷ともいふもと　古市場村　の　枝郷　なり　しよし　郡村記　にいへり　尾張御領　百二十九石四斗一升　名古屋まで八里半あり　飛鳥神社　の事隣村古市場の條にしるす合せ見るべし

持田村　ハ飛鳥の東北にあり　御旗本　戸田氏　領　二百三十七石五斗五升

東門村　ハ持田の西にあり　御料　御旗本領とも　三百四十石六斗六升三合

須衛村　ハ持田の北東にありむかし陶器を作り出したる地なるべし　御料　七百九十一石五斗九升

古市場村　ハ飛鳥の南にありて曾原郷也　同　七百五十一石八斗六升　飛鳥田神社　ハ村の北にありて今ハ大明神と稱す　延喜神名式　に各務郡飛鳥田神社　と云るし　美濃國神名記　に正三位飛鳥明神　と見えたる官社なり隣村飛鳥村ハもと當村の屬邑なりしよしなればもと一村にて飛鳥が古名にてのち古市場と改まりし成るべし今松林の中にます小社といへども尊ふべき御神也

熊田村　ハ古市場の南にありて曾原郷といふ　御旗本領　二百九石五斗五升二合

島崎村　ハ熊田の西にありて曾原郷なり　同　百九十一石八斗二升七合

野口村　ハ熊田の南にありて曾原郷といふ　同　二百四石二斗二升七合

東島村　ハ熊田の東にありて曾原郷也　御料　百二十六石九斗一升一合　加佐美神社　ハ　延喜神名式　に各務郡加佐美神社　と見え　美濃國神名記　に正四位下笠見明神としるしたる古社なり

坂井村　ハ東島の東にありて曾原郷といふ　同　七十九石八斗一升八合

各務村　ハ坂井の東にありて當郡の主郷なり　和名類聚抄　に各務郡各務　と見え　西宮記に内給書様人給美濃權史生各務村連秀長云云　としるしたるハこゝなり各務村連ハ義理わきまへがたし誤字落字等あるべし　三代實録　の貞觀八年七月九日の條に各務郡太領各務吉雄云云とあるもこゝの人なるへし　御料　千五百五十七石一斗八升五合　白山社　ハ延喜神名式　に各務郡村國神社　と見え　美濃國神名記　に從五位下村國明神　としるしたる官社なりといへり

柿澤村　ハ前野の東にあり　尾張御領　七十二石　今減して　四十四石五斗六升三合　となる　稲荷社　ハ村民まつれり

野村　ハ野口の南にあり　同　七十一石四斗六升八合　正保年中減して　三十四

石三斗四升二合　となる名古屋まて七里あり　官舎　ハ　圓城寺奉行　の下役こゝに居て材木を改む　八幡社　ハ村うちにあり　野太郎先生頼清　ハ　分脈系譜　に美濃源氏野太郎先生頼清其子野太郎頼重等をのせたりこゝの人なるべし

前渡村　ハ野村の南にあり　御旗本　坪内氏　領　八百八十五石六斗三升　小島村　ハ前渡のうち也　大豆渡ノ古跡　ハ承久三年六月官軍を東山道へ道はさるゝに尾張河ハ九瀬あるなれば各勢を分ちて渡り〳〵へむけられしうち大豆渡ハこゝなり　吾妻鏡　にハ　摩兎戸　とかき　承久記　にハ　大豆途　とかけり今まへどといふハ訛りたる也

山脇村　ハ前渡の枝郷にて　同領　二百三十三石六斗四升　の地なり

下切村　ハ前渡の枝郷にて　同　二百五十八石三斗三升　の地なり

鵜沼村　ハ野村の東にありて鵜沼庄といふ東山道の　宿驛　にて町屋立つらね旅人常にたえす京の方加納宿へ四里また江戸の方太田宿へ二里の馬繼なり古昔には　鵜沼　とかき古歌にハ　宇留間　とよめり　田氏文集　に過二鵜渭一詩をのせたる鵜渭ハうぬまとよみてこゝの事か又岐阜などの鵜飼川の事か今ハ考へがたし　梅華無盡藏　に　貫河梧安一日欲レ觀二飯山櫻井　飯山尾之北涯櫻井即鵜沼　之勝一序　とあるハこゝなり今に　櫻井の清水　といふ古跡あり　藤川記　に　東路のうるまの清水名をかへはゝらしなたびにたつの市人と　あるハ此しみつのよし小澤蘆庵が東の道記にいへり　八雲御抄　にうるまの關　美乃云云　うるまの渡　美乃云云　と見え　後拾遺集　に東のかたへまかりけるにうるまといふ所にて　源重之　東路にこゝをうるまといふことハ行かふ人のあれハなりけり　重之家集には東路のこゝをうるまといふ事はとあり　藤原仲文集　にかうつけのかみにて下りけるに美濃國うるまのわたりにて　行かよひ定めかたきハ旅人の心うるまの渡りなりけり　とよめり　權大納言爲兼卿家集に　市中雪　誰かへと雪の花さく市柴に春をうるまの冬の里人　と見え　新續題林の雜の部に　名所市　光胤　いち人ハ何をうるまのうるみちに我たとらしとさはぎ立らむ　とあるハこゝの歌か外にさる名所ありてよまれしか今知らす　藤川記　に此うるまにたつの市人をよみ合せ給ひしハ市によしあり　尾張御領　三千二百六石六斗四升五合　名古屋へ七里あり　枝村　を　南町　大伊木　小伊木　羽場町　古市場　西町　東町　三池新田　内野新田　といふみな本村の四面に散在すそのうち伊木ハ舊地にて　承久軍物語　に　いけぜ　と見え　吾妻鏡　に　池瀬　とかき承久記に　氣瀬　とあるせる彼九瀬のうちの一所ハこゝなるべし　各務野　ハ村の西にありて貝原篤信が　岐岨路記　に鵜沼の西のはづれより西に廣き野あり各務野と云ひろさ三里四方あり　と云但東西ハ三里ばかり南北一里半程に見ゆる此野に田畠なしたゝ青草のみ生す野の南に三井山と云山あり其山の南木曾川のきハまて野有りとかけるが如しむかし國名の起りし三野の一

所なり　桑原野　賤の小手卷　に桑原野といふ所に金せう塚と云有毎夜塚の内に鷄鳴を聞鵜沼本郷の甚之右衛門と云者人夫を集め鑿けるに金の繩朱も多く出燒物の盞あり金繩ゝ直に碎く其後鷄鳴やむ　と云るせり　伊木山　ゝ木曾川の北西の岸にあり山上に梔子多く岸の側石壁削成すが如く卷柏多く生す　八木山　ゝ驛の北にありくはしく大安寺の條に記す合せみるべし　三嶺　ゝ八木山の西にあり　愛宕山　ゝ三嶺の西にあり絶頂に巨岩聳え立松杉茂れり最奇觀なり　香積寺山　ゝ町の東にあり昔し香積寺ありしか廢れて今藥師堂のみ殘りて塔藥師といふ其外廢寺の跡多し　鵜沼川　ゝ村の南の方を流るゝ木曾川をいふ向ひゝ尾張の丹羽郡犬山なり城樓川を隔てゝ南に高く聳え風景よし　續日本紀　に　神護景雲三年九月壬申尾張國言此國與二美濃國一堺有二鵜沼川一今年大水其流改レ道每日侵二損葉栗中島海部三郡百姓田宅一又國府並國分二寺俱居二下流一若經二年歲一必致二漂損一望請遣二解工使一開堀復二其舊道一許レ之　と見え　三代實錄　に貞觀七年十二月廿七日甲戌尾張國言昔廣野河流向二美濃國一當二于斯時一百姓無レ害而頃年河口擁塞惣落二此國一每レ遭二雨水一動被二巨害一望請掘二開河口一令レ趣二舊流一太政官處分依レ請同八年七月九日辛亥先レ是尾張國言奉二太政官處分一掘二開廣野河口一令レ趣二舊流一而美濃國各務郡大領各務吉雄厚見郡大領各務吉宗等率二兵衆步騎七百餘人一襲二來河口一毆二傷郡司一射二殺役夫一河水流レ血野草霑レ膏成功將レ畢有二此相妨一至レ是太政官下二符美濃國司一倆河流利害兩國爭論彼是相持歷代無レ施於レ是重遣二詔使一與二兩國司一相共勘定更復朝議審二其得失一下二知兩國一令二其掘開一而蹔二于功役一已發作事稍成多與又毆二傷人一流レ血雖レ云二郡司之無レ狀抑亦國吏之失歟而言レ之理豈合レ然宜二早掘開一又擬興二兵衆一法禁是重而數過二七百一害及二殺傷一須レ禁二四亂首吉雄等一兩國司相共錄二死傷人數一依レ實言上同廿日壬戌下二知尾張國司一暫停二掘開河口之事一焉同廿六日戊辰先レ是尾張國言美濃國各務郡大領各務吉雄厚見郡大領各務吉宗等作レ乱之後未レ經二幾日一率二人夫數百人一斫二壞倉庫一流二失河水一逆二積沙石一埋二塞河口一吉雄等引二百餘騎一往二還河邊一欲レ發二隨近之兵一糺中彼逆乱之由上恐下鬪爭起レ自レ堀レ河之論遂至中兩國接上及之際上因停二堀開一伏待二裁下一中島郡人磯部逆麿等三人身從二堀レ河之役一同爲二吉雄一所二射殺一是日太政大臣一本太政官下二知美濃國司一推二糺吉雄等之犯過一焉　と云るせり　鵜沼渡　ゝ鵜沼川の舟渡り尾張の犬山の内田に至るわたし守内田にある故内田の渡といふ　承久記吾妻鏡　等にいへる尾張川九瀬のうちの鵜沼渡是なりといふ　大安寺川　ゝ大安寺山より出づ驛中に橋ありて八間橋といふ下流南の方にて木曾川に入る　金山川　ゝ金山洞より出驛中をへて南の方木曾川に入る石橋ありて四間橋といふ八間橋の名に對へて云かなづく　土產　盆石　ゝ　濃陽志畧に在二各務野中一掘レ地得レ之其石脆鬆色黑鑿成二奇狀一植二草木一能活可レ保二數年一好事者以共二清玩一呼曰二鵜沼石一　と見えたり　焦米石　ゝ本草正譌　に美濃鵜沼の城墟堂洞の城墟兵糧庫

の燒たる跡今に至り土中に燒米あり碎石の如し數百年を歴て朽す一粒を呑て瘧を截る　酉陽雜俎　の説に合へり　と云るせり　酉陽雜俎　に燋米乾陀國昔尸毗王倉庫爲火所レ燒其中粳米燋者于レ今尚存服二一粒一永不レ患レ瘧　と見えたり　**梔子**　は伊木山其外の山にもあり貧民採りて花をこるせんほことしいひほしかはかして食料とす　**芋**　ハ此邊多く圃に作りて食すうるま芋といふ　**長澤右京進**　ハ石丸利光の子はじめ鵜沼の承國寺僧にて景祐といひしが剛力武勇の人なりしとぞ　季瓊日錄　に長祿二戊寅八月四日　美濃國承國寺景稜首座御判被レ遊寛正二辛巳九月廿四日美濃國承國寺瑞勳首座公文御判被レ遊也　船田後記　に長澤右京進孫九郎本鵜沼承國寺僧名曰二景祐一臨レ歟最勇捷也今時越藤謂下人之進二於事一者上凡稱二鵜沼小僧一也　と見え　梅華光霊藏　の明應五年石丸丹波敗軍の事をいへる條に父子五人自害孫九景祐廿二日討死と云るせり　又　船田後記　の終土岐元頼自殺隨レ死者三十餘人のうちに僧勝藏主鵜沼長福寺僧利光之姪　とあるもこゝの寺に住し僧なり　**大澤和泉守**　ハ當所の城主永祿五年八月卒　**大澤次郎左衛門**　ハ和泉守の子なるへし信長公に攻られ城を燒取られて退く太閤記の文古城の條にしるす合せ見るべし　**南宮社**　ハ南町にありて鵜沼一村の惣社といふ祠官後藤氏　**天王社**　ハ驛のうちにあり居森祠彌五郎祠等あり　**一宮社**　ハ驛中にあり　**二宮社**　ハ驛中にあり　濃陽志畧　に近時村民盤二祠後山岸一有二石窟一豁然其中可レ設二數席一疑

是古穴居之迹也然不レ得二事實一甚可レ憾也俱村民奉祀　と見えたり　**天王社**　ハ羽場町にあり　むかしハ愛宕山の上にありしをこゝにうつして神明を配せ祭れり　**神明社**　ハ古市場にあり　**天王社**　ハ小伊木にあり　**愛宕社**　ハあたご山の上にあり修驗玉泉院つかさどる　寛永年中里胥國定某建立して八景寺と名づけ山城醍醐の三寶院の末寺とす此山高くして遠望の景よきゆゑ八景寺と名づけしとぞその外樣現社小野宮社等村うちにありしか廢絶して古跡古木などのこれり　**大安寺**　ハ北濟山といひて臨濟宗京都妙心寺の末寺なり應永十八年辛卯笑堂和尚開基し土岐美濃守頼益（號興禪院殿岳保公）大楂越にて五山派南禪寺の屬院なりしか累年の兵火に衰廢せしを春叔和尚再興して妙心寺派に改む頼益の位牌今にあり境内の觀音堂に安置する正觀音の像ハ行基法師の作にてむかし寺中に浮圖ありし其本尊なりしよしいひ傳へたり　脇の小手卷に　大安寺に古證文有爲二大安寺一領二於鵜沼鄕中五拾石一之處寄二附之一　右此上當寺山之境可爲二如二前代一並一切諸役錢免許候委細大貳中舍者也仍如レ件　永祿拾丁卯五月日池田勝三郎忠倫判　と見え其外にもあるよしいへり　**熊野社**　ハ當寺鎮守神也　**塔頭**　**正白庵**　又叔庵　**知足庵**　**善慶院**　**正續庵**　**鶴捿庵**　といふむかしハ七堂伽藍なりしよし　**經藏墟**　ハ觀音堂の右にあり今礎石のこれり　**浴室墟**　ハ大門の右にあり　**座禪石**　ハ村の西八木山の項にあり笑堂和尚跌座せし跡なり此山の西に大池ありて　**麻綜池**　といふむ

かし龍掛しか其龍ある日女子に化し和尚に謁して弟子たらむ事を乞ふ和尚則戒を授けければ龍神悅ひ師の爲に水をさゝげむといふ此寺山岩の間にありて井を穿に僅りなく水に乏しかりしがかくてのち八木山の頂に清泉湧出ければ筧をもて寺中に引用水とすしかししより今に絶ゆる事なしといひつたへ其あまりの水川となりて南に流るこれを大安寺川といふ此麻綜池と尾張の中島郡赤池村の赤池と地の下にて水通ふといふある時此里人此池にて馬をひやしけるにあやまちて水中に沈みしが三日三夜過て彼赤池に馬人ども浮みあがりしといひつたへたり　正法寺　空安寺　ともに淨土眞宗東派三河の佐佐木村上宮寺の末寺なり　三塚　ハ内野にあり當所城主大澤和泉守　の墓也三墳むかひたてり其上松樹數株あり石碑ありて表に梵字を彫り其下大澤和泉守法名月然祐圓信士永祿五年八月日とじるし右に喜伯宗欣禪定門左に大道妙泉禪定尼と刻めり　三浦塚　ハ小伊木にありふるき五輪石塔三基たてり里民　三浦平六兵衛　の墳なりといふ其實否を知らず　金繩塚　ハ香積寺山の南にありむかし此所に豐饒の人ありしか寶物を塚のうちに埋め置しといひ傳へ夜中などに鷄の啼聲の塚のうちに聞ゆる事もありければある時役夫を催し塚を掘あばきて彼寶を求めけれどさせる物もなく只銅繩一束と其下に朱砂一團塊あるのみ也しが繩ハ手に隨ひ碎け腐り損しけるよし里民いひつたへたりいかなる塚ともさとりかたし　伊木氏古城　ハ伊木山の上に池田勝入の臣　伊木清兵衛　の

住しあとなり　大澤氏古城　ハ木曾川の岸の上にあり怪岩重なり立て險岨要害すくれたり大澤和泉守　同次郎右衛門　居す山上に糧庫の墟ありて燒米石を出す

新撰美濃志廿八の卷

尾張文園岡田啓編輯
美濃簡齋神谷道一修正

羽栗郡

平方村（ヒラカタ）ハ郡のうちの西南のはてにありて西門間庄といふ尾張御領五百三十七石三斗四升名古屋まて七里半あり長良川ハ村の西を南に流る八幡社神明社ハともに村の地うちにあり永照寺ハ淨土眞宗京都東本願寺の直末寺なり

本郷（ホンゴウ）村ハ平方の北にありて西門間庄（クドマ）といふ本郷とハ當郡の主郷にて和名類聚抄に葉栗郡葉栗とある舊地なるべし同御領四百九十九石七斗名古屋まて七里半あり神明社ハ村うちにあり社人淺井氏つかさとる法藏寺ハ淨土眞宗京都東本願寺の直末寺也古城跡ハ今田圃となる稲葉系圖に稲葉佐渡守正成（はじめ）内匠助は兵庫頭重通の養子葉栗郡本郷の城主なりよしをるせり山城

の淀侯の祖也

間島村 ハ本郷の北にありて西門間の庄也 同御領 三百三十九石八斗 名古屋まで七里あり 聖權現社 熊野權現社 八幡社 富士權現社 ハともに村の地うちにあり 佛願寺 ハ浄土眞宗京都東本願寺の末寺なり 太閤山 ハ天正十二年秀吉公竹ケ鼻の城を攻られし時 取手 をこゝに築かれし故ゑか名つけしとそ

天王森村 ハ間島の北にありて西門間庄といふ 同御領 百二十五石九斗一升 名古屋まで七里あり 逆川 ハ駒塚にて木曾川派れて西北に流れこゝに至りて 長良川 に入るすべて南に海ある國〳〵ハ川水みな南に流るゝを習ひとす然るに此川例にたがひて北にむかひ西によりてながるゝ故ゑか名づくといふ 牛頭天王社 ハ村の地うちにあり 村名 この社より起りしなるへし

西小熊村 ハ天王森の北にありて西門間庄といふ 同御領 千五石一斗六合 村高帳にハ六百六十四石二斗二升とす 名古屋まで七里半あり 枝村 を南栗野 相田 といふ 界川 ハ村の北にあり 各務郡 より出 西南 へ流れこの邊にて 墨俣川 に入るむかし 尾張美濃 の國堺 なりし故かく名つく 天正十二年 國ざかひ替りて今の

如くなりしかど川の名ハ改めず猶かく呼べり 吾妻鏡 嘉禎四年將軍家 頼經 御上洛旅泊の條に二月九日矢作宿入御于足利左馬頭亭依去夜風雨洲俣足近兩河浮橋流損云云十日萱津御宿 亥刻將軍家俄御不例 御霍乱歟諸人驚騒醫師時長施醫術之間小選令御本復云云十一日今日御逗留于萱津宿依去夜御不例餘氣也其後修理兩河浮橋云云十二日小隈御宿十三日垂井とあり 神明社 須原大明神社 阿曾宮 ともに村民まつれり 白山權現社 辨才天社 ともに修驗つかさとる 一乘寺 ハ小熊山と號し 臨濟宗京都妙心寺の末寺也境内の 地藏堂 の本尊を橋杭地藏といふ其ゆゑよしハ墨俣の條にしるす 恩立寺 永明寺 明超寺 ハともに浄土眞宗京都東本願寺の末寺なり

東小熊村 ハ西小熊の東に並ひ西門間庄といふむかしハ東西のわかちなく一里にて 小隈 とも 小胡麻 ともかきし也 吾妻鏡の建久元年十月の條に 小熊宿 とえるし 嘉禎四年二月十二日の條また 同年十月十六日の條に 小隈御宿 と見えたり其頃ハ宿驛なりしなり又 飛鳥井家 の領地なりしよしハ 康

正二年造内裡段錢並國役引付　に　飛鳥井殿家尾張國小熊保段錢　と云るし
尾陽雜記　にのせたる　古證狀に尾州小熊保事飛鳥井亞相家領候處去康正二
年建仁寺祥雲院號二寶寄進二被二沽却一候其後長享年中鷲見美作守自二祥雲院一
又令二買得一候刻以二吹擧狀一常德院殿御判令二頂戴一候其時御下知共嚴重之事
候然上ハ當方分領勿論之處飛鳥井殿違乱之子細候哉無二覺悟一候巨細之旨鷲
見可二注進一候得二其意一勢州へ申達當御代並御下知等申沙汰可レ然候恐々謹言
六月十二日政房判遠藤丹後守殿　と見えたり　同御領　七百七十三石四斗二
升三合　名古屋まて八里あり　枝村　を　北粟野　江頭　といふ　小胡麻郡司維季
ハ平家の家臣にて　小熊　に住し人なり　平家物語　の　治承元年西光法師　か詠せ
らるゝ條に嫡子　加賀守師高　ハ解官せられて尾張の　井戸田　へ流されたりしを同國
の住人　小胡麻　の　郡司維季　に仰せてうたせらるゝと云るせり　源平盛衰記　に
も同しさまに見えたり　小熊權守伊遠　ハ　古今著聞集　に尾張國の住人をごまの權守
若かりける時京に宮仕して侍りけるがある時彼主人行幸供奉の爲に內裏へ參りける供に侍けり
少遲參ぜたりけるに陣頭に馬車ひしと立たるをわけまいるに或舍人あやまちせさせたまふな此
御馬ハ人をふみ候ぞといふを權の守少も事共せず主人よりさきにすゝみて御馬引のけよ馬の足
損すなといひけり舍人ハ馬をハ直さず猶あやまちせさせ給なとたび〳〵いひけるをごまハりう
らの狩衣の殊にさやめきたるをなん著て馬の尻にわざとあたらむとてをるを案の如く馬ふみて
げり腰のほとにハあたりぬらむと見えつるにをごまハ少も事なし馬ハやがて足を損してふしに
けり其時をごま立かへりてされハこそといひつれ其御馬ハ損しぬる物をといひて通りにけり馬の
足の損する程につよくあたりたるを事ともせず有りけるつよさの程たそろしき事なり　と云る
し又　鳥羽院　の御代相撲の節の後　帥中納言長實卿　のもとへ　小熊權之守伊遠
と聞ゆる相撲息男　伊成を具して參りたりけるが　弘光といふ相撲も參り合せ酒狂のうへ
伊成と勝負をしけるが　弘光あやなくまけたりしよしを云るせり是もこゝの人なるへし　神
明社　若宮八幡社　神明社　權現社　天神社　神宮社　ともに村の地內にあり
了應寺　ハ　淨土眞宗京都東本願寺　の直末なり
川口村　ハ　東小熊　の　南　にありて　西門間庄　といふ　民部省圖帳殘缺，に
尾張國葉栗郡河伯公穀二千五百六十七束有余　とある河伯ハ鄉名歟今さる里のあ
りとも聞えす川口ハ其名に近けれハこゝの事にもやあらん今定かならす　同御領　百六十
八石一斗九升　名古屋まて七里あり　八幡社　ハ村民まつれり

淺平村（アサヒラ）ハ本郷の東にありて西門間庄といふ同御領二百四十七石九斗六升名古屋まて七里あり津島神社村民祭れり極法寺ハ淨土眞宗東派名古屋聖德寺の末寺なり速水氏宅趾ハ今田圃となる速水勘兵衛住しよしいひ傳へり

竹ケ鼻（タケハナ）村ハ本郷の東南にありて西門間庄といふまた松葉郷ともいふ町家長く豊饒の商人多く毎月二七の日六日市立ありて諸方より寶ものを持來りて商ふ人立多く殷阜なる里なり康正二年造内裡段錢並國役引付に飛鳥井殿家尾張國竹鼻和郷並小熊保段錢と見えたり同御領九百五十五石九斗二升五合名古屋まて七里あり藍ハ當郡所所に產するを竹ケ鼻にて藍玉に作り又蚊帳も此邊にて造り出し諸方へうる蚊帳ハ近江の八幡にて製する品に同し當所の產物とす八劍宮社ハもと他の地にありしを天正九年不破源六居城の東北の方今の地にうつし祭りしよしいへり社人淺井氏つかさとる例祭は八月八日試樂九日車樂七輛を引渡す續連珠俳諧集延寶四年坂本に氏神八劍宮奉納に霜八たひ置は名にれふ劍かな　みの竹ケ鼻　坂倉氏吉賴　新續大筑波集万治三年季吟撰に午の年に氏神に繪馬掛奉るへき宿願侍しに　吉書にもかくへし地福皆ゑんま一鷗竹か鼻渡邊氏本覺寺ハ曹洞宗眞如山と號し尾張の三淵村正眼寺の末寺也光照寺ハ虛空山といひて淨土宗西庄村の立政寺の末寺なり正法寺ハ大慈山と號し同宗西庄村立政寺の末寺なりもと隨松庵といひしを今の寺號に改めしものにて其年月定かならず境内觀音堂の本尊ハ惠心僧都の作佛なり專福寺ハ淨土眞宗東派の懸所にて觸下五十余ケ寺あり河野九門徒のうち也淨榮寺ハ同宗京都東本願寺の直末寺なり聞得寺ハ淨榮寺に同し西岸寺ハ聞得寺に同し足近の西方寺のわかれにて俗に御坊所といふ古城跡ハ村の北にありて今本覺寺の境内となる長井豊後守利隆明應の頃まで居りしといふ梅華无尽藏に明應五年丙辰今茲夏石丹石丸丹波出江假道於伊陽過尾之津島屯竹鼻夏五十日之曉入濃之旗墮寺とあるを見れば石丸利光もこゝに屯せしなり安土創業錄に天文十五年齋藤道三近江國より加勢を乞ひ十一月始織田播磨守が當國大柿の城を攻む信秀聞之同十七日竹ケ鼻勢を押出しそれより稻葉山近邊を放火す信長記にゑるせるも大むねたなじと見えたる其頃誰人が住みしか姓名をゑるさねば知るよしなし其のちハ不破源六の居城なり源六ハ織田信雄公麾下の軍將にて信雄卿從士分限帳に三千

六百貫不破源六ゝ見えたり天正の石直しによれば　三千六百貫　ゝ　三万八千八百石　に當れり　天正十二年五月六日豐臣秀吉公加賀井の城　を攻落し直に　當城　を攻られしか水堀の要害よくて乘取り難かりけれゝ一夜の内に堤をつかせ水引溜て城中にそゝぎ水責にせられしかば　源六さゝへがたく　同十日　降參して城を明ゲわたし尾張へ落行ければ　一柳市助直本後伊豆守を城中に入置れしよし　太閤記難波創業錄　正和要簡　家忠日記　豐鑑　等の諸書に云るせるが各異同ありて一樣ならす其のち　源六前田家　に從ひしにや　文祿三年卯月八日加賀中納言殿　へ御成記の家中御禮のうちに　不破源六美濃紙三十束白鳥一ツ　献上せしよし云るせり　市助直本　あるひゝ直末とす　天正十四年大垣　にうつりしのち　池田勝入　の家老　森寺清右衛門　暫くこれを守り其後　杉浦五左衛門　の居城となる　慶長五年　の乱れに　五左衛門岐阜中納言秀信卿に属きければ　八月二十二日　關東の軍勢起川を渡り攻撃す　梶川三十郎　毛利掃部　花村半左衛門　等加勢して堅く守りけれども防き得ず打負け　即日杉浦　自殺し城陷る其のち　廢城　となる　一夜堤　ゝ　間島村　より　江吉良村　に至り長き堤なり　天正十二年秀吉公當城　を圍み水攻を施さむとて人夫を多く集め　五月十日　一夜に築かれし堤なり今猶のこりて一夜つゝみと喚べり　賤の小手卷　に　竹

ケ鼻村　に　稻葉内匠頭　屋敷跡あり今ゝ田圃となる大坂の役より　六年以前　に當所を立退しと云傳ふ　と云るせり

島　村　ゝ　川口　の　東　にありて　西門間庄　也　同御領　三百三十石三斗三升　名古屋まて七里あり　枝村　を　大武栗　といふ　神明社　ゝ村うちにあり

坂井村　ゝ　東小熊　の　東　にありて　西門間庄　といふ　郡村記　にゝ　足近庄とす　同御領　百十九石三斗七升七合　名古屋まて七里半あり　堺川　ゝ村の北を流る　山王權現社　ゝ村うちにあり

南之川村　ゝ　島村　の　東　にありて　西門間庄　といふ　同御領　二百七石七斗　名古屋まて七里あり　大明神社　村内にあり　元祿七戊申年　開墾し　南川　島村　川口

足近新田（アジカ）　ゝ　島村　の　南　にあり　三百九十　名古屋まて七里あり　神明社　村うちにあり

小荒井（コアラヰ）　等の農人　耕（クカヘシ）　耘（クサキル）　よし　濃陽志畧　にいへり

小荒井村（コアラヰ）　ゝ　東小熊　の江頭の　東　にありて　西門間莊　なり　同御領　三百五十石二斗七升三合　村高帳には三百九十二石一斗五升とす　名古屋まて七里あり　神明社　村うちにあり

正壽寺　ゝ　淨土眞宗東派墨俣村滿福寺　の末寺なり

不破一色村（フヾイシキ）　ゝ　小荒井　の　東南　にありて　西門間庄　といふ　古名　を　一色

といひしよし　郷帳　に見へたり　御料　尾張御領とも　二百五十石八斗六升五合（うち御領十三石八斗八升）　名古屋まて七里あり　貴船大明神社　ゝ村民まつれり　不破氏宅趾　ゝ今其所知れす　天正十二年不破源六竹ヶ鼻　の城を退き此地に住みしといふ　信雄卿從士分限帳　に　源六一色　を領知せしよしをるしたれゝ慥にこゝに居りし也

須賀村　ゝ　不破一色　の　東北　にあり　御旗本中川氏領　二百七十四石一升

南宿村・ゝ　小荒井　の　東北　にありて　西門間庄　といふ　尾張御領　八百七十一石三斗　名古屋まて七里あり　枝村　を　一色　本町　ゝ元町　といふ　神明社　ゝ　興源寺　つかさとる　八幡社　白山社　ゝ村民まつれり　興源寺　ゝ　神光山と號し　臨濟宗北宿村大惠寺　の末寺也もと　心月菴　といひしを今の　寺號　に改めし年月定かならす　清心寺　ゝ　正本山　といひて　臨濟宗北宿村大惠寺　の末寺也もと　清心菴　といひしを今の寺號とせし年月詳かならす

直道村　ゝ　南宿　の　北　にありて　西門間庄　といふ　郡村記　にゝ　足近庄とす　足近　ゝ　十郷　ありてこゝを　本所　とす　同御領　五百七十四石七合　名古屋まて七里半あり　中島村　ゝ　直道　の　枝郷　なり　村高帳に直道村三百八十六石七合とかけるゝ此枝村中島を除きたる石高なるべし　堺川　ゝ村の　北西　にありむかしゝ　足近川　といひしにや　吾妻鏡に　文治元年十月廿五日甲戌今曉差領狀勇士被發遣京都先至尾張美濃之時仰兩國住人可令固足近洲俣渡　云云と見え又　嘉禎四年二月將軍家御上洛の條に九日乙酉依去夜風雨洲俣足近橋流損　云云とをるせり（板行本吾妻鏡には足の字を脱す）　兩河浮寺　つかさとる　延喜神名式　に　尾張國葉栗郡阿遲加神社　としるし　尾張國神名帳　に　從三位阿遲加天神（一本に正四位下足近天神とす）　と見へたる官社なり　正八幡社　白山社　天神社　ともに　自性寺　つかさとる　自性寺　ゝ　臨濟宗　にて北宿村大惠寺　の末寺なり　西方寺　ゝ　淨土眞宗京都本願寺　の直末寺なり　開山西圓坊（あるひゝ祐善）　ゝ　澁谷庄司（あるひゝ澁谷金王丸の三男七郎祐俊入道祐善とす）　とて當郡中野村の住人なりしが親鸞上人　の弟子と也　西圓　と號し此寺を　中野　に建立す　天正　の項の住僧祐慶大坂石山　合戰に門徒を引卒してはせのぼり　門主　御味方に加ゝりたれば　信長公　大に憤られ　中野　の地頭　加賀井彌八郎に仰せて寺を破却せらるこれによりて祐慶再ひ　精舍　をこゝに建立せしとそ　足近　の　西方寺　とも　澁谷　の　西方寺　ともいふ　本尊　の　阿彌陀　ゝ　聖德太子　の作なり　願教寺　誓養寺　ゝともに　淨土眞宗京都東本願寺　の直末寺なり

市場村　〃　直道　の　東南　にありて　西門間庄　といふ　郡村記には足近庄とす　尾張御領
九十二石六斗四升　名古屋まて七里あり　神明社　〃村内にあり
北宿村　〃　直道　の　東南　にありて　西門間庄　といふ　郡村記　には　足近庄
とす　同御領　二百二十八石二斗四升五合　名古屋まて七里半あり　白山權現
社　〃村うちにあり　大惠寺　〃　妙喜山　と號し　臨濟宗京都妙心寺　の末寺なり
北舟原村　〃　北宿　の　東　にありもと　舟原　といひしを　南北二村　とわかれし年
月しれす　御旗本中川氏領　三百五石一斗七升二勺九才
町屋村　〃　北舟原　の　枝郷　にて　同領　八十九石五斗一升一合六勺四才
の地なり
柳津村　〃　舟原　の　北東　にありて　門間庄　といふ　神鳳抄　に　尾張國田代
高島楊津御厨　と見えたり　伊勢　の　内宮　の　御厨　にてありし也　尾張御領
四百八十四石四斗三升五合　村高帳には七百二十四石四斗三升五合とす　名古屋まて七里半あり　穴太郎
天神社　北天神社　天神社　〃村うちにあり　光澤寺　〃　淨土眞宗京都東本願
寺　直末寺なり
柳津新田　〃　柳津　の　枝郷　にて　同御領　二十一町六畝五歩　の地なり

田代村　〃　柳津　の　南　にあり　神鳳抄　に尾張國　内宮　田代御厨　とあるハこ
れなり　御料　高六百十九石三斗九升三合　森越後守可勝が金山記に文龜永正
頃美濃國羽栗郡蓮臺村住人森越後守可勝とて文武兼備の壯士あり云云大
永三癸未年可勝男子と儲く森三左衞門尉可成是也と見はたり　八幡社　田
代村の氏神　なり　天保二辛卯年の四月廿三日　の曉神木大樹の松雷雨大風にて吹
折て中より龍の天上し笠松村尾張の北方村等數村の人家を吹倒し大小の樹木折れ倒れたる其數
を知らす死人怪我人も多かりしとそ今に傳へり　北野神社　白鬚神社　秋葉神社
及眞宗西派　掛所　同派　了連寺　淨土宗　淨光寺　等村うちにあり
北及村　〃　柳津　の　南　にあり　正徹の慰草　に　あドかれよび　なども同し
やうにてこに過ぬと見え　堯孝法印の覽富士記　に尾張國および川にて　我君の惠
みや遠く及川ゆたかに澄る水の音哉　とよみ　宗長手記　の津島堤にて川の廣
さをいへる條に　および洲俣河落合近江の海ともいふべし　と考るせり　夫木
和歌抄　に家集たよみのはし際　源法師　さ夜ふけておよみのはしを引わたす
音たかくなるあたえのくまとも　とあるもこゝなるべし其あたえのくまの駒いいかなるこま
か今考へがたし　加納領　七百三石八斗三升　兒神社　及眞宗東派　誓廣寺

あり

南舟原村　ハ　北舟原　の　南西　にあり　御旗本　中川氏　領　四百五十石六斗七升四合六勺五才

森　村　ハ　市場　の　東　にあり　御料　御旗本　中川氏　領とも　四百三十三石六斗五升七合四勺二才　の地なり　貴船神社　及真宗東派　榮龍寺　あり

坂丸村　ハ　森　の　東南　にあり　加納領　御旗本　中川氏　領とも　百九十石一斗八升四合　貴船神社　及真宗東派　圓養寺　あり

加納村　ハ　須賀　の　東　にあり　尾張御領　百二十石五斗二升

光法守村　ハ　坂丸　の　東南　にあり　御旗本　津田氏　領　二百五十石八斗　神明神社　村内にあり

南及村　ハ　光法寺村　の　東北　にあり　加納領　百六十石八斗四升　賀茂明神社　ハ　慶長四年巳亥十二月廿三日　尾張の　玉野井村　の　賀茂明神を勧請して　氏神　とす

三ッ屋村　ハ　南及　の　東　にあり　御料　御旗本　津田氏　領とも　百五十石五斗一升九合

たばけ村　ハ　三ッ屋村　の　北　にあり　御旗本　津田氏　領　百三十五石七升

長池村　ハ　三ッ屋　の　北　にあり　同領　三百三十三石一斗四升　秋津神社　村内にあり

北藤掛村　ハ　長池　の　東南　にあり　同領　四十四石四斗五升

笠松村　ハ　柳津　の　東南　にありむかしハ　笠町　といひしよし町屋數町軒を並べ商人多く豐饒の里なり　尾州舊話畧　に　慶長十九年四月廿九日連日大雨故濃州の堤多く切れ尾州へ水押入る海東郡勝幡村の堤崩れ田畠損亡不可勝計圓城寺村の下笠町の民甚右衛門と云者の姪蛇になり勝幡の池へ飛入しゆゑ洪水他所に異なるよし巷説ありと見えたり　其頃まで　笠町　といひし也

御料　三百八十石九斗八升　御郡代陣屋ハ慶安三寅の年岡田將監御郡代として南美濃のうちの御料の村々を所務ありし時こゝに　假屋　を建て下吏を置しが　寛文二寅の年名取半左衛門御郡代の時　より　陣屋　となりて在勤しそれより今にたえず　數地ハ多く德田新田の地にて笠松村の地ハ少なし高十二石五斗二升八合一町八反五畝二十五歩ハ德田新田　高六斗九升六合　八畝二十一歩　笠松村の地なり　代々の御郡代ハ　岡田將監　名取半左衛門　杉田九郎兵衛　甲斐庄四郎右衛門　岩手藤左衛門　辻六郎左衛門　辻甚大郎　川井彌三兵衛　瀧川小右衛門　元文年中　には

大草太郎左衛門 野田甚五兵衛 両人一年代りに御預り 延享三寅年より 青木次郎九郎 寶暦九卯年より 千種清右衛門 明和三辰年より 千種六郎左衛門 明和六午年より 千種鉄十郎 天明八申年より 辻六郎左衛門 寛政三亥年より 鈴木門三郎 寛政十二申年より 辻甚太郎 木曾川 ハ 村の南にあり 圓城寺村 當村の邊にて鰣年魚鱸等の諸魚をとる 舟渡り ハ 尾張の里小牧村に至り 一ノ宮海道 名古屋への大みち也 慶長六巳年十月美濃羽栗郡のうち元堤を築く 今の小堤あり 慶長三寅年大堤を築く 八幡社 ハ 村内字八幡町にあり例祭 八月十五日 産靈神社 ハ 宮町に 瑞應寺 ハ 臨濟宗にて下新町に誓願寺 ハ 浄土宗にて西町に 智曉庵 ハ 同宗にて下新町に眞宗東派 掛所 ハ 宮町に 發泉寺 ハ 眞宗東派にて西町に 福證寺 ハ 同宗にて上穀町に 法傳寺 ハ 同宗にて本町に 蓮國寺 ハ 日蓮宗にて下新町にあり 同 三百三十九石四斗三升六合

徳田新田 ハ 笠松の北にあり 同 九十七石四斗五升の地也

奈良津新田 ハ 徳田の北にあり

栗木村 ハ 笠松の東にありて 門間庄といふ 尾張御領 七石八斗五升

農家二三軒みな圓城寺に屬けり名古屋まで七里あり 八幡社 ハ 村うちにあり

徳田村 ハ 笠松の北にありて 上門間庄といふ 御料 尾張御領とも 七百二十七石九斗七合 うち御領は四百十九石四斗四升なり 名古屋まで七里あり 堺川 ハ むかしの尾張美濃のさかひ川なり 九所大明神社 ハ 修驗常仙院 つかさどる 濃陽志略に 里老傳云昔、在川島村洪水漂流至此鎮座川島村民請還之德田里民不肯即以此村八幡興之故今川島村有八幡社稱德田八幡と見えたりさあらハ 延喜神名式に 尾張國葉栗郡川島神社としるし 尾張國神名帳に 從三位川島天神と見ゑたる官社なるへし 仙覺法師の 萬葉集抄に引用したる 尾張風土記に 葉栗郡河島社在河沼郷河島村奈良宮御宇聖武天皇時凡海部忍人申此神化爲白鹿時々出現有詔奉齋爲大社焉と見えたり 北野神社 も村内にあり 江月寺 見性庵 ハ 臨濟宗なり

下印食村 ハ 徳田の北にあり 吾妻鏡承久記承久軍物語にえるしたる 尾張川九瀬のうちの食渡 はこゝなるへし上印食下印食ともいんじきと ハ 稱せすかみじきしもじきと呼べり 加納領 千二百石七斗九升 新開村 ハ 下印食のうち也 八劔神社 あり 專光寺 ハ 浄土眞宗西派河野九門徒のうち也 專光寺 眞宗なり

上印食村 ハ 下印食の東北にあり 同領 三百十六石五斗九升七合 中印

食村 ハ 上印食 の内なり 生島神社 異宗東派 法善寺 あり

印食新田 ハ 御料 百三十二石八斗二升 の地なり

三宅村 ハ 印食 の東 にありて 上門間庄 也もと 井口村 といひしを今の名に改めし 年月 定かならず 尾張御領 五百石七斗七升 名古屋まて七里あり

枝村 を 木瀬 須賀 といふ 石作大明神社 村内にあり 延喜神名式 に 尾張國葉栗郡石作社 と見へ 尾張國神名帳 に 從三位石作天神 とある 官社なり當社むかしより 石作大明神 と稱せるを 濃陽志畧 本國帳集說 等に式社の考へをもらせり 今井田大明神社 若宮權現社 ともに村民まつれり 天神社 ハ村民三宅氏つかさどる 如意寺 ハ 萬年山 といひて 臨濟宗粟野村大龍寺の末寺なり 淨福寺 ハ淨土眞宗京都東本願寺 の直末寺也

藥師寺村 ハ 印食 の南 にありて 門間庄 といふ 尾張御領 二百三十石六斗 名古屋まて七里あり 鞍懸大明神社 ハ村民まつれり 藥師堂 ハ名古屋の 惣兒寺 つかさとる 本尊藥師如來 の像ハ 行基菩薩 の彫刻といひ傳へ殊に古雅也 むかしハ大伽藍にてありしが廢絕せし物ならんか村名もそれより起りしなるべし

圓城寺村 ハ 藥師寺の 東 にありて 門間庄 といふ 同御領 八百三十九石八

斗五升六合 名古屋まて七里 枝郷 を 川中島 河田島 といふともに木曾川の川中にあり年々の洪水に地崩れ民居も害し常住する事能はざるに至る 田中大明神社 白髭大明神社 神明社 富士權現社 ともに村内にあり 神明社 ハ 小屋場 にあり 八幡社 ハ 河田島 にあり 西明寺 ハ 臨濟山 と號し 臨濟宗京都妙心寺 の末寺也 專養寺 ハ 圓城山 といひて 淨土宗西山派京都永觀堂禪林寺 の末寺なり 當村住人野々垣氏 建立して檀越となる 開瑞寺 ハ 淨土眞宗東派竹ケ鼻村專福寺 の末寺なり 稱名寺 ハ 同宗京都東本願寺 の直末寺にて 河野の九門徒 の一所也 康應二年 羽栗郡の農民九人 綽如上人 に歸依して薙髮して僧となる 上人祖師親鸞聖人 の 眞筆 を 一幅 ッヽ九人に賜ふ是を 河野の九門徒 といふ 文明二年蓮如上人 伏屋村に草堂を結ひ祖師の像を安置し九門徒に命じて輪番たらしめらる其後草堂退轉し門徒も又離散し 東西二派 となる 祖師の像ハ 印食村專光寺 に安置し 西派 となる 西德寺 ハ 淨土眞宗京都本願寺 の直末寺 河野九門徒 のうちなり 官舍 ハ 野々垣氏 代々當村に在りて木曾川並の事を掌るこれを 圓城寺奉行 といふ 番所 ありて下役のもの守る 船渡 ハ木曾川を越し尾張の 北方村 に至る

中野村 ハ 圓城寺 の 東 にあり 御旗本 坪内氏 領 百八十八石 天王社
綾大明神 木瀬宮 等の社あり
無動寺村 ハ 中野 の 東南 にあり 元亨釋書 に 沙彌藥延 美州人 家在二路
傍一適無動寺一一比丘遊方一宿二此舍一 云云とあるハこゝの事にはあらず 比叡山無動寺
の比丘の美濃に遊ひて藥延が舍に宿りし也 同 二百二十三石三斗 土岐系圖 に
左京大夫頼藝の弟土岐八郎頼香娶二秀龍女一天文十三年八月織田信秀濃州へ
攻入時秀龍命二松原源吾久之一於二葉栗郡無動寺光德寺一討二幼子野州那波庄一
成長ス と見えたり 正神社 及眞宗東派 光得寺 あり
伏屋村 ハ 圓城寺 の 北 にありて 上門間庄 といふ 信濃の園原の伏屋と同名に
てむかし河津渡船等ある所に布施屋を建られしがこゝも其舊地にて村の名に喚べるなるべし
袖中抄 河海抄 ともにいはく 今勘國史云仁明天皇承和二年六月勅如聞東
海東山兩道河津之處或渡舟數少或橋梁不備出是貢調擔夫來集河邊累
日經旬不得利涉宜每河加增渡舟二艘其價重者須正稅又造浮橋
令得通行及建布施屋備干橋寄其造作料吉用救急稲云云陽成天皇

元慶四年云弘仁十二年國分寺尼法光爲救百姓濟渡之難於越後國古志郡
渡戸濱建布施屋施墾田四十余町渡船二侯令往還之人得其穩便而
年代積久無人勞濟屋宇破損田疇荒廢望請被宛越後國傍五人永令預守
云云 とあり 御料 尾張御領 御旗本 平岡氏 領とも 七百三十七石 うちに御
領ハ十九石四斗也 名古屋まて七里あり 白山社 諏訪社 ともに村うちにあり 憶念寺 ハ 淨
土眞宗京都東本願寺 直末也 太閤城墟 ハ今人居となり 平岡家 の臣 伏屋氏
居住す
成光村 ハ 伏屋 の 東 にあり 加納領 九十七石三斗八升七合
若宮地村 ハ 成光 の 南 にあり 同領 百十三石五斗五升九合 白山神社
村内にあり
米野村 ハ 成光 の 東南 にあり 御旗本 坪内氏 領 二百三十七石 日枝神
社 及眞宗東派 正淨寺 同宗 福藏寺 あり
野中村 ハ 成光 の 東 にありて 上門間庄也 尾張御領 二百六十一石六
斗五升五合 名古屋まて七里あり 八幡社 ハ村内にあり 正傳寺 ハ 大久山

といひて 臨濟宗 名古屋 白林寺 の末寺也 安淨寺 ハ 淨土眞宗京都東本願寺 の直末寺なり

江川村 ハ 野中 の 東南 にあり 御旗本領 坪内氏 七十九石六升 木曾川村の南を流る此所川中に島ありて水二筋に流れ水勢はけしき故にや洪水に堤の切るゝ事度々也

慶長十一午年六月三日 の大水に 江川村 平島村 邊の堤決る 同十七年子四月二十九日 同所〳〵の堤決る 元和五未年八月七日 同所堤決る 慶安三寅年九月朔日 江川村 邊の堤大切損所多しこれを 枝廣大水 といひ又 やろが水 ともいふ 承應三午年七月十三日 江川村 堤決るその外此あたりの村〳〵にてもきる事多く 寛永三寅五月十六日 に 前渡村 の堤切れ 承應二年巳七月朔日 に 松本村 の堤切るゝ 明和三戌年 に 米野村 の堤決し 寛政十午年四月七日 に 圓城寺 の 堤大切れ 枝廣洪水 より 水三四尺 程高かりしこそ 旋頭歌 麻衣きそちの川に水かさ増れる伊勢の海清きなきさに汐みつらむか、田中道麿 津島神社 村内にあり

平島村 ハ 野中 の 東 にあり 同領 四百三十七石六斗 承久記吾妻鏡等に尾張川九瀬のうち稗島とあるハこゝなるべし 物見神社 及 得正寺 あり眞宗東派

成清村 ハ 平島 の 東 にあり 同領 三百十一石八斗

下中屋村 ハ 成清 の 南東 にあり 同領 二百四十七石九斗七升二合 村社 春日神社 あり 西入坊・ハ 淨土眞宗東派河野九門徒 のうち也 當坊十七世 の住僧 行念河野の九門徒 を 再興す のちそれが隱居せし地を 行念寺といふ

大佐野村 ハ 下中屋 の 北 にあり 同 百三十五石三斗五升 村社 神明神社 安樂寺 ハ 淨土眞宗西派河野九門徒 のうち也 金龍寺 ハ臨濟宗なり

上中屋村 ハ 下中屋 の 東 にあり 同 二百六十六石三斗六升 小綱村 松本村 ハ 上中屋 に屬けり村社 白鬚神社 同 北野神社 同 神明神社 及臨濟宗 慈勝寺 同 觀音寺 眞宗 上德寺 あり

間島村 ハ 中屋 の 東南 にあり 同 九十一石二升枝村 を 石田といふ

笠田村 ハ 川 を隔てゝ 間島 の 南 の方 川中島 にあり 同 七十一石九斗四升 村社 白鬚神社 あり

松原島村 ハ 笠田 の 南西 にあり 同 三百三十石三斗七升 村社 八幡神社 及眞宗木願寺派 西養寺 あり

小網島村 ハ 笠田島 の 東 の方の川中島也 門間庄 といひてもと 各務郡 につきたりしが中むかしより川決して其地全たからず 尾張御領 二十八石 の地なりしが水害に田畠沒て農民も 圓城寺村 につけり 神明神社 村内にあり

松倉村 ハ 小網 の 西 にありてもとハ 松倉島 といふ 尾張御領 御旗本 坪内氏 領とも 百八十石四斗 の地なりしが川欠に損沒して田畠全からず 枝村 を 牛子 といふ 神明神社 二社 榎神社 及眞宗 長光寺 あり

新撰美濃志廿九の卷

尾張文園岡田 啓編輯
美濃簡齋神谷道一修正

中島郡

小薮村 ハ 郡 のうち 南 のはてにあり 御料 五百四十七石九斗 木曾川 ハ村の 東南 を流れ 墨俣川 落合ひ川巾殊に廣くなり水深くして海のとし 八幡神社 曹洞宗 觀音寺 同 法輪寺 眞宗東派 南春寺 村内にあり

小薮新田 ハ 小薮 の 北東 にあり 同 六百二十九石八斗一升三合

大須村 ハ 小薮 の 北 にありて 長岡庄 といふ 名古屋眞福寺の藏書の悉曇字記の元德三年五月廿八日の奥書 に 尾張國中島郡大須庄云云 と見え又同寺所藏の聲字義私聞書の奥書 に 建武五年七月十九日於尾州大須德林寺始之 と云るぜりふるき地名なり 尾張御領 六百五十石 名古屋まて六里あり 正八幡社 諏訪大明神社 石神社 ともに村うちにあり 東光寺 ハ 淨土眞宗京

都東本願寺 の直末寺なり 不動堂 ハ村うちにあり 眞福寺墟 ハ今松林となるむかし 能信上人開基眞言 の 道場 なりしが水災の恐れある故名古屋にうつり今大須寶生院といふ是なり

東方村 ハ 大須 の 北 にありて 長岡庄大須郷 といふ 康正二年造内裡段錢並國役引付 に 山下孫三郎殿尾州賀野東方段錢 と見えたり 同御領 百九十三石五斗九升五合 名古屋まて六里半あり 御靈宮 富士權現社 ともに村うちにあり 正明寺 ハ 淨土眞宗京都東本願寺 の直末寺なり

堀津村 ハ 東方 の 北 にあり 康正二年造内裡段錢並國役引付 に 伊賀美作守殿尾張國堀津北方段錢 と見え 船田後記 に 明應丙辰夏四月石丸利光之子利高招懷逃散於江之南郡假道於伊而欲入國云云立元頼土岐爲大將毘沙童子爲副戎殆四千人次于逆手更渉無首以水無源名之濟松樹投尾之津島廿九日丁午經義朝將軍埋鎧之地古來出師避此地而光過之鎧墓次于堀津石田之際又遷次狐穴竹鼻云云 と見えたり 御旗本平岡氏領 三百十二石二斗一升 須賀 ハ 堀津 のうち也 天神社 ハ齋藤家 の建立也 八幡神社 水天宮神社 八劔神社 神明神社 曹洞宗 秀悅庵 傳流寺 傳德寺 圓道寺

皆眞宗東派なり

沖村 ハ 堀津 の 東 にあり 御料 御旗本土岐氏領 七百八十八石四斗四升五合 八幡社 眞宗 是性寺 同 光清寺 村内にあり

市枝村 ハ 沖 の 南 にありて 長岡庄大須郷 といふ 尾張御領 四百五石一升 名古屋まて六里半あり 稲荷大明神社 ハ境内ふるく古松の大樹あり 尾張國神名帳 に 中島郡從三位櫟江天神 としるしたる社なるへし 興雲寺 ハ 淨土眞宗東派名古屋の聖德寺 の末寺なり

八神村 ハ 東方 の 東南 にあり 古名 を 桑原村 といふ則 桑原庄 を稱すへし 濃陽志署 に 長岡庄大須郷 とするハあやまり也 隣邑城屋敷村 をふるくより 桑原庄 といひ傳へたる 同庄 の本地なり 尾張國妙興寺所藏 の 貞治六年丁未十二月十二日散位長利の寄進狀 に 尾張國中島郡桑原村内須賀垣内名事云云 と見え 又同寺應安三年同四年清長の寄進狀 にも 中島郡桑原村 としるせりむかしより 美濃 と 尾張 の堺にハ桑を多く植て蠶に飼ひし故村名ともなりし也 新撰六帖又夫木和歌抄 の雜の部桑の歌に 光俊朝臣 見のぞハりさかひつゝきにうゑなめてよむともつきし桑のいくもと とよみ 又

船橋家の職原抄私記（正保五年の板行本）天平二年に美濃國より桑の葉に寶の字と年號にしたるとぞと見えたり　續虫くいたると天子へ献する故に即天平寶字

日本紀にしるせる旨といたがひたれど美濃に桑樹のありし事ゝしるにたれり

尾張御領（毛利氏の在所）九百五十九石五斗一升八合（村高帳には九百七十八石三斗一合とす）名古屋まて六里あり　枝村を前野といふ毛利氏第宅ゝ村うちにあり名古屋の世臣三千石を領して代〳〵此地と在所とすくはしく石田村の條にしるす合せ見るへし

稲荷大明神社ゝもと市枝より移りしよし里人いひ傳へたり境内に八劔宮

白鬚明神　六社明神　若宮八幡等の祠あり　上宮社ゝ前野にあり　金寶寺ゝ惠日山と號し臨濟宗なり　珉德寺ゝ淨土眞宗京都東本願寺の直末寺なり　眞福寺ゝ珉德寺に同し　善了寺も眠德寺にたなし

拾町野村ゝ木曾川を隔てゝ前野小藪新田の東にありて尾張の地に接す　長岡庄大須郷といふ郡村記にゝ桑原村の枝郷といへり　尾張の妙興寺所藏の古文書のうち元應二年四月三日沙彌承念が讓渡所領坪付注文に一所桑原村云云一所十町野云云と見えたり　古き地名なり　尾張御領二百二十一石六斗九升九合　名古屋まて七里あり　八幡社ゝ村人まつれり

川東村ゝ十町野の北にありて尾張の地に接ゝる木曾川の東にて川東の名よく叶へり今民居なし　同御領五十石

馬飼村ゝ十町野の南にありて長岡庄大須郷といふ尾張の地に接し　神明津輪中なりむかし尾張美濃より國飼の御馬を貢りしが其馬飼戸のこゝに在りしなるべし　延喜左馬寮式に飼戸云云美濃國三烟尾張國九烟と見え　類聚國史に天長九年四月壬午鑾輿御武德殿閲覽左右馬寮及畿内近江美濃等國所飼御馬云云と見えるせり　また日本書紀の大化二年の條に復有百姓臨向京日恐所乘馬疲瘦不行以布二尋麻二束送三河尾張兩國之人雇令養飼乃入于京於還郷日送鍬一口而參河人等不能養飼翻令疲死若是細馬即生貪愛工作謗語言被偸失若是牝馬孕於已家便使拔除遂奪其馬云云と見えたり當國に馬を飼のふるきを見るべし　同御領二百五十石名古屋まて六里あり　八幡社ゝ村うちにあり　正受寺ゝ淨土眞宗京都東本願寺の直末寺なり

三拾町野村ゝ八神の東の方木曾川の向ひにありて尾張の地に接はれりむかしゝ石津郡なりしをのちに中島郡に属たりしよし　濃陽志畧にいへり　同御領

百五十石　正保年中　減して　六十六石八斗九升五合　とす名古屋まで六里あり

石田村　ゝ　八神　の　東北　にありて　長岡庄大須郷　といふ　松葉集　に　石田里尾張　の　名所　とし　夫木抄　にいはたのさと　尾張文應元年七社百首民部卿爲家　今よりや岩田の里の秋風も夜寒に吹けゝ衣うつらん　と見へ　同抄　に　寶治二年百首歌　光俊朝臣　まき置し石田のわせのたねなればはかにまたゝきさなへとる也　とよみしゝこゝか　又尾張　の　海西郡　の　石田村　か今ゝ何れとも定めかたし　同御領　七百石　名古屋まで六里あり　延喜神名式に尾張國中島郡石刀神社　と見え　尾張國神名帳　に　從三位石刀天神　と云るしたるゝ此地にいましゝ神か今ゝ社なけれゝ知られす　願照寺　ゝ　淨土眞宗京都東本願寺　の直末寺也　正專寺　ゝ　願照寺　に同し　毛利掃部助宅跡　ゝ村の西北にあり今ゝ田圃となりて老松樹一もとあり　名古屋眞福寺　にある　古證文　に　永代賣渡申下地之事云云延德元年巳酉十二月日賣主石田郷毛利掃部助實忠　と見えたり　毛利氏　はじめこゝに在りてのちに　八神　に移りしとそ　壚尻　に　毛利掃部助　加賀井彌八郎兩人　ゝ　尾州中島郡大須庄北野村眞福寺　の　家老　なりしといふ　豐臣家　の時幕下に屬して　采地の朱章　を得しとそ（毛利ハやかみ村を代々領せり加賀井）

（關ヶ原の役に御獻となる）按するに　後村上院　の　皇子仁瑜法親王眞福寺所務の時此兩氏坊官　なりしが宮遷化の後自所を押領して住居せしと云云、と見えたり　毛利氏　ゝ　清和源氏陸奥守義家朝臣の後裔也名古屋眞福寺所藏の毛利系圖

古寫にて毛利源六郎系圖とあり　に　義家（正四位下鎮守府將軍號二八幡太郎一云云）　義高（義家第六男近江國にて自害號二義廣毛利六郎清一和天皇八代後胤）　義昭（ハル毛利越後守）　義輝（毛利左右衛門介）　廣繁（毛利石見守自清和第十二代）　廣秀（毛利大朋京進）　廣清（毛利源七郎）　廣明（毛利治部大夫）　廣繩（ツナ毛利因幡守）　廣隆（毛利美濃守）　廣包（毛利甲斐守）　廣盛（毛利小三郎自清和廿代）　毛利掃部介　毛利金右衛と見えたり　毛利の家譜　によれば　廣盛ゝ掃部介といひて　梶川彌三郎高盛の女を妻とし　元和二辰十二月十四日八十四歲　にて病死し　富林常翁居士　と號す　其子廣義金右衛門といふ　是大須本　の　古系圖　の終に金右衛　としるしたる人なり　廣義難波寅卯　の御合戰に御旗本に屬して出陣す　元和　のはじめ　名古屋に奉二附屬一　て世臣に列シ　同五末十月十二日病死　四十五歲　し　喜嶽宗歡居士　と號す其子　掃部廣豊以下　代〳〵　八神の領主　なり　城屋敷村　ゝ　石田　の　北　にありて　桑原庄也加賀井　の城ある故しか名つく　同御領　百六十二石七斗二合　名古屋まて六里半あり　神明社　ゝ村うちにあり　光福寺　ゝ　淨土眞宗東派名古屋聖德寺　の末寺也　加賀野井彌八郎城趾

ん村の北にありて今田間となる　天正十二年四月尾張　の　長久手　の合戰終り　五月朔日秀吉公　勢を引て　美濃　に入り　同三日加賀井の城　を圍み攻らる城兵ふせぎ戰ふといへとも敵軍の多勢にうちまけ城を明ケ渡し　城主彌八郎　をはしめみな退散せしよし　太閤記　難波創業錄　家忠日記　等の諸書に見えたり　尾張國古戰場記　といへるものには　五月朔日秀吉公　小牧表引取り　大垣　へ打入り　同三日加賀野井　を攻むと　富田　の　正德寺　に陣を居へ　細川越中守を先手として　加賀野井　へ押寄す　越中守外構へを引破り押込むとす城中より突て出て戰ふ城兵　平井駿河を　越中守の手の者　澤井大學討取る寄手きひしく戰ひしかん城兵こらへかたく　翌日　夜に入て城を明て尾張へ歸るとゝるせり此　古戰場記一名　を　尾陽軍談　ともいふ

西加賀野井村　ん　城屋敷　の　東南　にありて　中庄　といふ　同　八十六石六斗六升一合　名古屋まて六里あり　逆川　ん　木曾川　の水こゝにてわかれ　北西に流れて　天王森　に至り　長良川　に入る　加賀野井彌八郎秀望んこゝの人也先祖　ん　南朝　の　御連枝東南院仁瑜法親王　に奉仕し　親王　大須の　眞福寺　にはしましける時　坊官　としてつかふ宮かくれ給ひて此地を自領して住めり　秀望織田信雄公に從ひ　八千石　を　領　すあるひん　一万石　を　領　せしともいふ　信雄卿從士分限帳　に　四百十五貫　か丶の井　賀賀野井彌八三百貫　知多郡　藪の郷　きら山　同人　と見えたり　天正十二年　の夏　秀吉公　に攻られて沒落し　尾張美濃のうちに隱れ在りしを　慶長五年石田三成彌八郎をかたらひ　關東　に下して　東照を殺し奉らむとす　神君　其謀を知り給ひしにやあへて謁見をゆるし給んす　彌八郎むなしく歸りけるが　池鯉鮒の驛　にして　水野和泉守と鬪爭に及ひ　和泉守を殺害し彌八郎も亂兵の爲に殺され　其家斷絶す彌八郎强勇世に聞えたりある時　伊吹山に凶賊　あるひん　鬼神とも　すみて人民を惱ましける　彌八郎伐ほろはしけるともいひ傳へたり正八幡社　春日大明神社　須原大明神社　ともに村のうちにあり　圓應寺　ん淨土眞宗京都東本願寺　の直末なり　武者物語　に　刈屋の城主水野惣兵衛と　堀尾帶刀とちりふに出合て軍事を談合せしたり加賀野に彌八郎彼地に來り鬪爭に及ひ彌八郎惣兵衛を切殺し　帶刀をも討むとせしを帶刀かろふして　彌八郎を討留けり扨彌八　鼻紙袋を改めけれん　惣兵衛帶刀兩人を討取たらば三河遠江をつかんすべきとの石田　が證文を所持し居たりしよしゝるせり

東加賀野井村　ん　西加賀野井　の　東　の方　木曾川　の　東尾張　の地内にありて

中島郡祐久村　と地を接す　中ノ庄　なり　同御領　五十石一斗一升三合　名古屋まて五里余あり　木曾川　ハ　東西加賀野井　の間を流る此渡りの川巾廣〳〵水多し　八幡社　天神社　ハともに村民まつれり　明源寺　ハ　淨土眞宗京都東本願寺の直末寺なり　極樂寺　ハ同し宗名古屋　聖德寺　の末寺也

駒塚村　ハ　逆川　を隔てゝ　西加賀野井　の　東北　にありて　西門間庄大浦郷といふ　同御領石河氏在所　二百九十四石八斗五升　名古屋まて六里半あり　駒塚官舍もこ役人こゝにつめて　川上の流材　を改めしが今ハ盈ずなりしよし　濃陽志畧　に見えたり　石河氏館　ハ村うちにあり　石河氏ハ　清和源氏多田滿仲の二男　大和守頼親の　裔孫也頼親十代加々島李兵衛光信信長公に仕へて　加々島村　に住す　其子李兵衛光政秀吉公に仕へ　同所に住す　光政の　弟光重石川伊賀守と名のり　秀吉公に仕ふ　其子紀伊守光元秀吉公に仕へ　播磨龍野城主　となる　慶長六年辛巳六月十九日卒し法號を前紀州大守凉室薫　といふ　其子東市正光忠はじめの名太郎八　慶長六年父光元の家督をつぎ　播磨竜野一万三石を領す同十五年當國　に轉し　山縣郡上野ノ郷　を以　在所　とす　加藤左衛門尉貞泰の跡　その後　源敬公の御附屬となり名古屋の郭内に　第宅　を賜ふ　又當村　を在所として屋敷を構へてすめり　寛

永五年戊辰九月十八日卒　四十歳　法號乾叟玄信京都妙心寺の大應院　に葬む　其子太郎八正光　以下代〳〵一万石を領　して名古屋の長臣に列す　神明社　春日明神社　ともに村うちにあり　傳法寺　ハ　淨土眞宗墨俣の滿福寺　の末寺なり

三柳村　ハ　駒塚　の　東　にあり　御料　五百八石二斗　の地なり　神明神社　眞宗東派　因覺寺　仝　空滿寺　村内にあり

中村、ハ　三柳　の　西　にあり　同　二百二十五石二斗二升六合　神明神社　眞宗東派　德仁寺　村内にあり

長間村　ハ　駒塚　の　西　にありて　西門間庄　といふ名古屋　眞福寺所藏の求聞持秘記　の　古寫本の奥書　に　干ノ時文正元年丙戌三月十五日尾州中島郡長間於神宮寺書寫畢を能濟　と見えたり　古き地名　なり　神宮寺　今ハなし　御料　尾張御領とも　四百九十四石二斗九升五合　うち御領ハ二十二石六斗五升五合　名古屋まて七里あり　古城趾　ハ里民のつたへに　長田美作守　居りしといへりいつの頃いかなる人とも考へがたし　尾張の妙興寺　の　古證文　に見えたる　前美作守泰隆あるひハ荒尾氏ともいふ　此あたりを領知せしよしなれハそれにてもあらむかそれハ　貞治應安　の

頃の人なり　神明社　真宗東派　誓安寺　同　願信寺　浄土宗　報恩寺　村うちにあり

長間千束新田　ハ長間の南にあり　御料　八十四石

一色村　ハ長間の南にあり　同　八十五石一斗四合　の地なり　白鬚神社

真宗東派　正源寺　村内にあり

蜂尻村　ハ駒塚の西にあり　同　百七十二石一斗八升六合　神明神社

真宗東派　蓮瑞寺　村内にあり

飯柄村　ハ蜂尻の北にありて　西門間庄　といふ　三所　にはかれて居住し　あるひハ中村とも　といふ　北　なるを　上飯柄　と

南を　本郷　とし中にあるを　中飯柄　名古屋まて七里あり　松池　ハ今埋もれ

いふ　尾張御領　四百四十二石四斗二升

て田圃となる　神明社　ハむかしハ此村　大神宮の　御厨　なりし故まつりしなるへし　尾張の妙興寺所藏の貞治六年丁未十二月九日前美作守泰隆の寄進狀に　尾張國中島郡賀野御厨内飯柄郷云云　と見えたり　石神社　ハ　妙見菩薩を合せ祀る　若宮八幡社　ハ村人まつれり　法源寺　ハ　浄土真宗東派墨俣の滿福寺　の末寺なり　龍泉寺廢跡　ハ今田圃となるいつの世すたれたるにか今に地をほりて

古瓦　を拾ひ得る事ありと里人いへり

新井村　ハ飯柄の東北にあり　御料　御旗本別所氏領とも　四百六十三石

九升五合　高彦神社　真宗東派　極了寺　仝　光泉寺　村内にあり

狐穴村　ハ飯柄の西にありて　大浦庄　といふ　船田後記に　明應丙辰夏四月石丸利光之子利高云云次二干堀津石田之際一又遷次二于狐穴竹鼻一　と見えたりふるき地名なり　尾張御領　千三十一石一斗八升　名古屋まて七里あり　稲荷大明神社　ハ　濃陽志畧に里民云玄翁禪師生二於此地一以二殺生石一故事二祀玉藻女一爲二稲荷一風土之説不レ足レ據也　としるせり　正八幡社　白山權現社　辨才天社　ともに村民まつれり　小林寺　ハ　面壁山　と號し　臨濟宗武藏國曹溪寺の末寺なり　眞修寺　ハ　浄土眞宗東派　名古屋　珉光院　の末寺也　藍　ハ田圃にうるて藍澱に造る　紺布　ハ當村に染物屋多くてよく染出す俗に　狐穴染　と云　太閤秀吉公朱章　を給ひて　租税　を免し給ひしか洪水に朱章流失せしといひ傳へたり　大宮大納言雜掌申熱田社領尾張國狐穴郷事先度被施行之處被官人等以押妨云云早止二彼妨一可レ被二沙汰一付雜掌更不レ可レ有二緩怠一儀一之由所レ被二仰下一也仍執達如件　應永三年十月十三日沙彌　判　今河右衛門佐入道殿　右ハ　吉田

助次郎嘉武大塚半次郎於二京都一買得之熟田の御神庫に寄附せし古證文なり

江吉良村（エキラ） ハ 逆川（ダキヤク） を隔てゝ 狐穴 の 西北 にあり 古名江吉良島村 といふ

御料 御旗本領 土岐氏 林氏 とも 千四百六十四石八斗六升 野々宮神社 臨濟宗

大乘寺 曹洞宗 清江寺 眞宗東派 生蓮寺 仝 福安寺 仝 安樂寺 村内にあり 江吉良村 御料所松助 といふ者の 裏に太郎助狐 といふ 老狐 久しくすめり 文政十二乙巳年 の 冬松助 故ありて 公義 より 御褒美白銀七枚頂戴す 其悦ひに右の狐を 花山院家 に願ひて 明神 に祝ひ 花園大明神 と名つけ 社 を 營 み 鳥居 なとうるはしく建たり扨其のち 明神松助 に告げるハ我ハ畜類たりといへともむかしより學文の志しありしか師をとるべきよしなくて打過ぬ人家の縁下にひそみ居て 今川狀 を聞覺え 又論語 も久敬心懸て 子張の篇 まて聞覺へたり 今かく忝く 神號 を 蒙りたる嬉しさに君か御家を守らむ事ハもとより普く利益を施して人の憂を救ひ參らせむといひて拜謝しけり扨様の上に 薯蕷 をたひたゝしく積置しとそ

舟橋村 ハ 江吉良 の 南西 にありて 中庄 といふ 尾張御領 五百三十六石七斗八升五合 村高帳には五百二十石五斗二升とす 名古屋まて七里あり 枝村二ヶ所 ありて 江北 出須賀 といふ 洞大明神社 ハ村うちにあり 照西寺 ハ 淨土眞宗京都

東本願寺 の直末寺なり

大浦（オホウラ）村 ハ 新井 の 東北 にあり 是當郡丑寅 の隅なる里なり 西門間庄 といふ 御料 尾張御領とも 四百四十六石八斗九升八合 濃陽志畧 には 六百五十石内二百九十八石二斗九合屬二我公領一 と見えたり名古屋まて七里あり

貴船大明神社 石神社 ともに村民まつれり 延命寺 ハ 南光山 と號し 臨濟宗北宿村大惠寺 の末寺なり 聖德寺墟 ハ 淨土眞宗東派 もとこゝにありしか火災に遭ひて 尾張の富田村 にうつり其のち又名古屋にうつれり此地又富田にありし事 信長記大閤記 等の 諸書 に見えたり

曲利（マカリ）村 ハ 大浦 の 北西 にあり 御料 二百八十五石二斗五升三合 貴船神社 眞宗東派 慶善寺 村内にあり

新撰美濃志三十の卷

尾張文園岡田啓編輯
美濃簡齋神谷道一修正

海西郡

野寺村（ノテラ）　ハ郡のうち北東の隅にあり　御料　九百二十九石九斗二升三合　神明神社　村内にあり　長江院　臨濟宗妙心寺派　西福寺　眞宗東派　正休寺　眞宗東派なり

幡長村（バナオサ）　ハ野寺の南にあり　同　六百二十二石一斗九升五合　神明神社　村内にあり

野市場村（ノイチバ）　ハ幡長の西南にあり　同　百七十六石三斗八升八合

者結村（ジャケツ）　ハ幡長の南にあり名古屋眞福寺所藏の　悉曇字記　の奥書に元德三年五月廿八日於ニ尾張國中島郡大須庄者結（ジャケツニシテ）自是圓（エン）御房御手賜ヒ之畢云云　と見えたり村名のふるさを知るべし中島郡大須村ハ川を隔てゝ隣邑なり　御旗本　日根野氏　領　三百四十石九斗二升六合

神保氏宅跡　異本太閤記　に　秀吉　八歲にして萱津の　光明寺にて　手習し後に美濃石津

郡蛇結村　神保平内　といふ土民に事ふと云、と見えたり　御靈神社　村名者結もこゝ
蛇穴と書り村名に蛇池と呼で池あり古昔此池に大蛇住す日本武尊これを討殺し給へりと　美濃
國古蹟考　云蛇穴村蛇池周巾二十町計り深淵不可量傳云曩昔蛇栖處今以號蛇穴云云一說に
曰御靈神社大蛇の靈を祭るか松の木村瀨古村成戸村にも此神社あり猶合せ考ふべし　圓光寺
眞宗東派なり

岡　村　〃野寺の西にあり　御料　三百八十九石四斗八升七合　八劔神社　眞宗
東派　西雲寺　村内にあり

須脇村　〃岡村の西南にあり　高須領　三百十二石三斗八升　洲脇山　〃砂山にて
初葺生ず　覺明寺　〃淨土眞宗村内にあり

神桐村　〃野市場の南にあり　同領　四百六十七石八斗七升九合　春日神社
眞宗東派　圓滿寺　村内にあり

神桐新田　も同所にあり　同領　三十三石三斗八升三合

松ノ木村　〃野市場の南の方にあり尾張の妙興寺所藏の貞治二年閏正月十七日の　沽却狀　に
尾張國中島郡田地事云云一所三段在所大口前一所一段小在所松岐又柳坪右田地者藤原氏女相伴地
也　と云るし　船田後記　に明應丙辰夏四月石丸利光之子利高云云戎殆四千人次二子逆手一
更渉二無首一以二水一無濟二松樹一名水投二尾之津島一　と見えたりふるき地名なり　同領　千二百六
十一石三斗一升四合　春日社　〃村うちにあり　古城趾　〃　吉村兵庫頭信實
吉村又吉郎安實　高二万石　天正の頃まで居住し其のち　德永法印壽昌　二万石（あるひは三万五千石）
領してこゝに居り慶長五年　高須　にうつりしよし　美濃名細記　に見えたり　蓮臺
寺　〃眞宗東派にて村内にあり

福一色村　〃神桐の南にあり　同領　百八十石七斗三升五合　八幡神社　眞宗東派
安樂寺　〃村内にあり

瀨古村　〃野市場の南東にあり　御料　二百五十五石一斗二升　金刀比羅神社
眞宗東派　安立寺　村内にあり

成戸村　〃瀨古の南にあり　同　五百七十四石一斗二升六合　御靈神社　臨濟宗
泰龍寺　眞宗東派　報土寺　同上　了雲寺　同上　專教坊　村内にあり

秋江村　〃成戸の南にあり　神鳳抄　に　尾張國秋吉ノ御園　と云るしたる〃こゝなるへ
し　高須領　六百九十七石一升三合　八幡神社　曹洞宗　清光院　眞宗東派
常休寺　同　淨福寺　村内にあり

鹿野村　〃秋江の南西の方にあり　康正二年造内裡段錢並國役引付　に山下孫三郎殿尾州賀野

東方段錢　と見え尾張の妙興寺にある貞治六年丁未十二月九日の　寄進狀　に尾張國中島郡賀野御厨　と云るしたる舊地なり　源平盛衰記　に西光法師が子息加賀守師高左衛門尉師平右衛門尉師親兄弟三人をば山門のそせうに依て尾張の國へ流されたりけるが當國井戸田と云所に有りけるを追討のために武士を差下さる師高が母是を聞急ぎ人を下して斯と告たり師高折節河狩して遊びけり國中の者ども多く集りて水邊ばかりやを造りならべ遊君其數よび集めて今樣うたひ琴琵琶引せ面白かりける酒宴の座へそ告たりける師高あはてまよひて彼配所をにげ出て同し國かのと云所に忍ひ居たりけるを討手の使下向して小熊郡司惟長河室判官代のりとも等を相具して押寄せ散〳〵に戰ふ師高師平もろちか兄弟三人思ひ切てふるまひけれどもついにかなわずこれなかゝ爲に誅せられけり　と見えたるかのもこゝ成るべし　同領　千百八十六石五

斗四升六合　春日神社　諏訪神社　八幡神社　曹洞宗　春光庵　眞宗東派　綠林寺　村内にあり

鹿野一色村　ハ鹿野の南にあり　同　百五十五石六斗二升二合　春日神社　村内にあり

大和田村　ハ秋江の南にあり　同　六百六石一斗八升一合　春日神社　村内にあり

應聲寺　眞宗東派なり　專教寺　も亦是に同じ

草場村　ハ鹿野一色の南にあり　同　四百二十一石二斗二升二合　若宮八幡神社　村内にあり

小草場新田　ハ草場の南にあり　同　四十六石一斗二升

駒ケ江村　ハ大和田の南にあり　同　四百八十五石六斗三升二合　松山中島ハ村の東の方にあり是尾張の海西郡高畠村に屬る地にて横井作左衛門の知行所十六石ばかりの川中島也もとの川筋ハ此松山中島の西を流れたりしが淵瀬かハりて今ハ東の方が本流となり西の方ハ淵となる　神明神社　眞宗東派　遠照寺　ハ村内にあり

駒ケ江新田　ハ同所にありて　同領　十三石三斗五升　の地なり

長瀨村　ハ駒ケ江の南にあり　同　三百九十九石八升一合　白山神社　眞宗東派

覺琳寺　村内にあり

日原村　ハ長瀨の南にあり　御料　九百六十一石二斗一升三合　八劔神社　觀音堂　眞宗東派　良源寺　仝　正端寺　村内にあり

立野村　ハ小興塲の南東にあり　高須領　三百六十四石四斗一升六合　八幡神社　眞宗東派　蓮念寺　村内にあり

外濱村　ハ日原の南にあり　御料　百五十八石一斗六升八合　八幡神社　眞宗東

派　皆得寺　村内にあり

森下村（モリシタ）　ハ外濱の南にあり　同　九十二石五斗一升一合　神明神社　村内にあり

古中島村（コナカシマ）　ハ森下の南にあり　和名類聚抄　に尾張國海部郡中島　と見え　民部省圖帳　の殘闕に尾張國海部郡中島庄公穀八百九十三束有余假粟四百七十三九　としるしたるハこゝなるべし

同　五十石六斗五升九合　八幡神社　村内にあり

長久保村（ナガクボ）　ハ日原の南にあり　高須領　四百三十五石六斗九升五合　八幡神社　眞

宗東派　誓賢寺　村内にあり

石龜村（イシガメ）　ハ森下の西にあり古名を　石神　といひしよし　郡村記　にいへり　御料　七十七石三斗四升七合　當郡の村〳〵ハ其地高からす川〳〵の堤決て水の入る事度々にて不熟の年の多きハ年々川下に洲出來て新田を築出せる故水の落る事すみやかならす滯り溢れて去かなりと皆人思へど近き世にかくなりたるにハあらす水流の溢れて不熟する事ハいと古き世よりの事にて　續日本後紀　に承和四年三月庚午詔ニ尾張國一課ニ口三分之一一特從二優復一河流漲溢民多病レ水故降二此恩一　と見えたり　神明神社　村内にあり

明治三十三年十月二十日印刷
明治三十三年十月廿五日發行

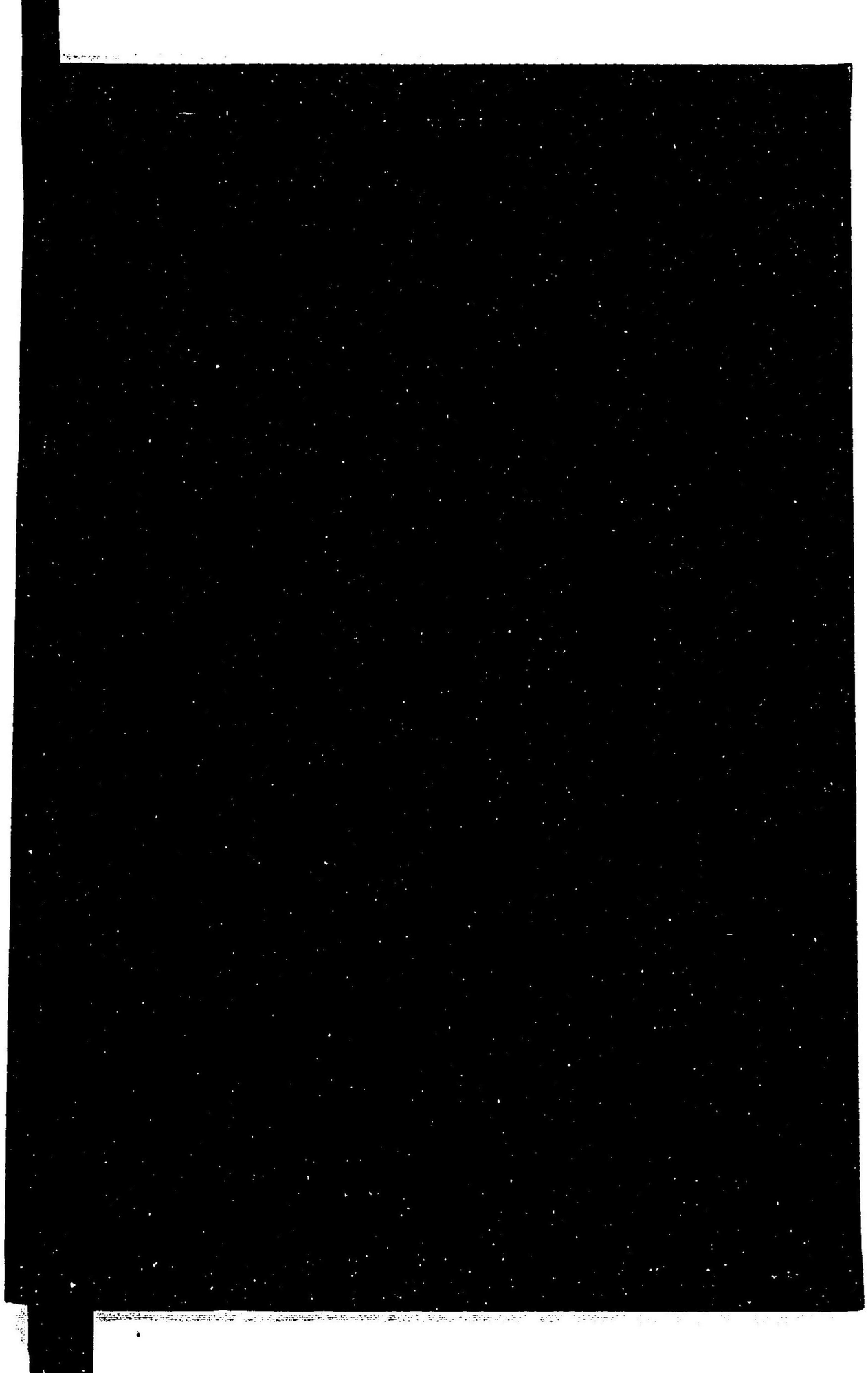
定價　金壹圓拾貳錢

著作者　岡田啓　相續者　服部萬次郎　愛知縣葉栗郡黒田町曾根甲三番戸

發行兼印刷者　神谷道一　岐阜縣岐阜市宮茂登五十三番戸

印刷所　扶桑新聞社南工場　愛知縣名古屋市本町四十四番戸

版權所有



291.53
0439s

024946-000-7

291.53-0439s

新撰美濃志

岡田　啓／著

M33

ADC-2247